

# 特定非営利活動法人事業継続推進機構 静岡地域勉強会 資料

## 事業継続の立場での 食の安全・安心への取り組み ～『純情産地いわて』での事例から～

2015年12月16（水）  
静岡市葵区 あざれあ4階会議室

ARMS 代表  
リスク管理・危機管理アドバイザー

赤 堀 三 代 治

ARMS All Rights reserved

# 私のプロフィール



あかほり みよじ  
**赤堀 三代治**



ARMS 代表

リスクマネジメント協会認定リスクマネージャー、コンプライアンスオフィサー協会認定アドバイザー  
1951年静岡県静岡市清水区生まれ 信州大学農学部卒

JA静岡経済連にて、畜産、企画管理、総務、情報システム、監査、コンプライアンス業務等を担当  
元クミアイ化学工業(株)社外監査役

所属組織等：リスクマネジメント協会、失敗学会、レジリエンス協会、BCAO事業継続機構、静岡県ふじのくに防災士会  
JALみず(理事)

コンプライアンス・リスク管理・安全管理、衛生管理・接遇・CS・CSの研修講師・コンサルタントとして、  
官公庁・JA・企業・医療福祉機関など全国で展開。

著書・連載など

『JA相談事例集 相続・高齢者取引編』(株式会社経済法令研究会/共著)

『JAコンプライアンス』(経済法令研究会/共著)脱稿中

『近代中小企業』(月刊誌/BCP、クレーム対応などを連載)



# 目 次

---

- ・ はじめに  
自己紹介
- ・ 私といわてJAグループとのかかわり  
3.11 災害支援が契機  
いわてJAグループのコンプライアンス・リスク管理  
危機管理・BCP・食の安全・安心等態勢整備を支援
- ・ いわてJAグループの食の安全、安心へのとりくみ実態
- ・ かかわって思う事  
これまでの反省とこれから

# 自己紹介に変えて1

---

私が37年間在籍しましたＪＡ静岡経済連は、2002年に精米不正（虚偽）表示に係わる不祥事を起こしました。

1998年、1999年にも類似した不祥事を引き起こしており、精米表示に関して3回目の不祥事となりました。このことに関して、2003年2から3月に3つの行政機関から以下の処分を受けました。

①ＪＡＳ法違反業務改善指示（食糧庁）、②食糧法違反業務改善命令（静岡県）③農協法違反業務改善命令（農林水産省）。この事件に対して、ＪＡ・生産者・消費者・取引業者等利害関係者の厳しい目にさらされました。

また、報道機関からも組織のありかたと存続に及ぶ厳しい声が寄せられ、厳しい対応を迫られました。

対応チームが結成され、会をあげて、不祥事の原因分析に基づく改善計画の策定計画に基づく改革が行われました。業務改善命令に対する指導が解除されるまで3年9か月の年月を要しました。

私は、30代から関連組織に出向する機会が多く、この時も関連会社に出向しておりました、外部から一步はなれて静観しておりましたが、突然、会への帰任辞令が発せられ、不祥事対応チームのリーダーの一人として対応にあたることとなりました。まさに青天の霹靂でした。このような経過のなか、以降、私は、会および県下ＪＡの「コンプライアンス・リスク管理」態勢の整備と運用に取り組むこととなりました。

# 自己紹介に変えて2

---

不祥事への対応は、組織にとっても職員個人にとっても、大変な試練でした。事件対応に係わる多大なエネルギーと不祥事が影響した事業実績の急降下による経営への影響、職員のモチベーションの低下等…。組織としてももちろんですが、個人的にも非常なプレッシャーの中で対応を迫られ、たいへん厳しいものでした。まさに事業継続の危機にさらされました。

取り組みの過程で、職場を去らざるを得なかった仲間の顔が浮かんできます。再びこのような不祥事を再び起こしてはならない。さらに、ＪＡグループの使命として「食の安全・安心」の確保を確実に履行したい…。強い思いで、私は日々業務にあたってきました。

私は、この時の経験を生かし、縁ありまして、農薬会社（くみあい化学工業株式会社）の社外監査役ならびに、内閣府食品安全委員会の食品安全モニター等を経験させて頂いてきました。

また、静岡県下ＪＡグループコンプライアンス対策会議事務局メンバーとして、静岡県内ＪＡグループのコンプライアンス・リスク管理態勢の整備ならびに強化にあたってきました。

2011年３月、ＪＡ静岡経済連退職を契機に、これまでの経験を生かし、コンプライアンス・リスク管理アドバイザーとして独立し、全国のＪＡグループ他・行政・民間の事業所等にうかがっております。



# JAグループ 概況



資料：農林水産省「統合農協統計表」(2012 年度) 注) 統計 JA 数は、JA 全中調べ

# 協同組合とは....

## 我が国の主な協同組合数・組合員数・職員数

◎主な協同組合の組合数・組合員数および職員数（2009年3月末時点）

|               | 組合数    | 組合員数(千人) | 職員数(千人) |
|---------------|--------|----------|---------|
| 農業協同組合(JA)    | 770    | 9,494    | 224     |
| 漁業協同組合(JF)    | 1,092  | 362      | 13      |
| 森林組合(JForest) | 711    | 1,575    | 7       |
| 生活協同組合        | 612    | 25,320   | 53      |
| 全労済           | 58     | 13,900   | 4       |
| 労働者協同組合       | 66     | 47       | 11      |
| 大学生協          | 228    | 1,509    | 2       |
| 労働金庫          | 13     | 10,058   | 11      |
| 事業協同組合        | 32,384 | 2,305    | 156     |
| 医療福祉生協        | 117    | 2,680    | 30      |
| 信用金庫          | 279    | 9,311    | 111     |
| 信用組合          | 162    | 3,698    | 22      |
| 計             | 36,492 | 80,259   | 644     |

※一部推定 ※組合員数は重複あり

# 私が体験した不祥事対応

ＪＡ静岡経済連 2002年  
茨城産コシヒカリを静岡産と偽って製造・販売

JAS法違反 食糧庁 「業務改善指示」 2003.2  
2003.12完了

食糧法違反 静岡県 「業務改善命令」 2003.3  
2004.3完了

農協法違反 農林水産省 「業務改善命令」 2003.3  
2006.12完了

3つの法令違反に対する行政措置  
農林水産省管轄組織しては、日本で初めて





# 再認識させられた組織としての社会的責任の重さ

---

平成 15 年 静岡新聞社説掲載

関連記事↓

■社説（2003年2月20日・木曜日）＝経済連の米不正表示－存廃の危機感を持って ↓

2003.02.20 朝刊 2頁 静岡 二政 （全 997 字） ↓

■社説（2003年3月16日・日曜日）＝米、お茶の食品表示－消費者を欺いたら終わり

2003.03.16 朝刊 2頁 静岡 二政 （全 997 字） ↓

■社説（2003年5月3日・土曜日）＝経済連の再生－実効挙げてこそ改革 ↓

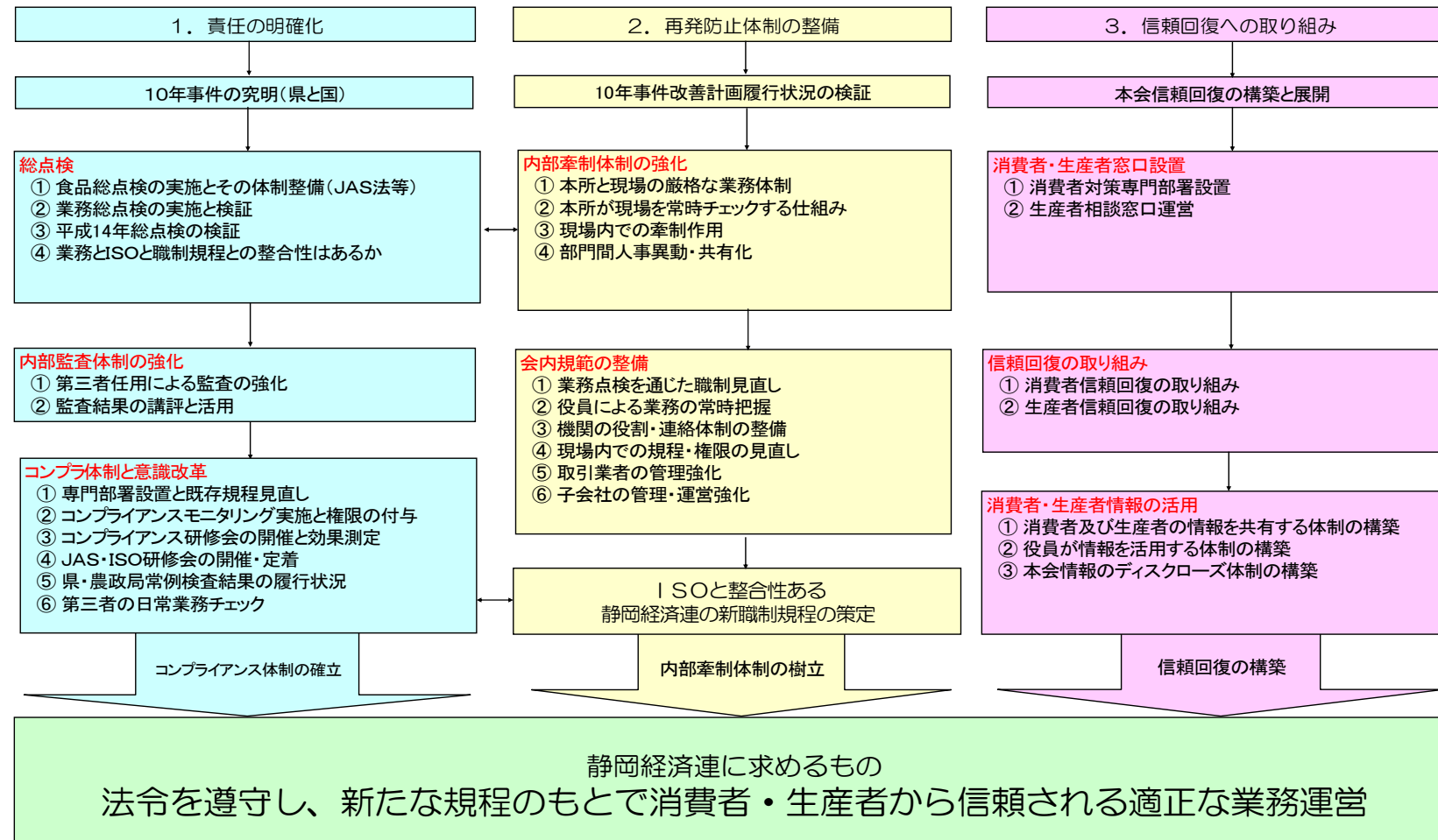
2003.05.03 朝刊 2頁 静岡 二政 （全 973 字） ↓

■社説（2003年10月9日・木曜日）＝経済連の信頼回復－徹底した品質保証を ↓

2003.10.09 朝刊 2頁 静岡 二政 （全 991 字） ↓

# コンプライアンス態勢の整備に取り組む

## 改善計画の骨子



# 不祥事発生とJAブランドへの影響

ひとたび、JAで事故・トラブル・不祥事等が確認されると、その内容は、その日のうちに、世の中の多くの人々が知ることとなる。

- 一般的なご利用者の反応  
JAは、「安全・安心」が売りなのに、もう安心できない。  
JAとの利用・取引はしばらく控える
- 他の事業への影響  
営農経済、信用、共済等他の事業への影響  
JAは信用できない。貯金や共済は、大丈夫だろうか...  
ご利用者の反応
- 他のJAへの影響  
JAということで、同様な目でみられる

**JAブランドを傷つけ、  
グループ事業とその構成員に多大な迷惑をかける**

# 表示違反発生事例

JAS法違反、不正競争防止法違反

## 岩手県産米を「〇〇育ち」 〇〇県警、JA〇〇を書類送検

2012.11.22 14:38 産経ニュース

大量の岩手県産米を混ぜたブレンド米にもかかわらず「〇〇育ち」の表記で販売したとして、〇〇県警生活経済課は22日、不正競争防止法違反容疑で、JA〇〇の法人と、男性幹部ら担当者4人を書類送検した。捜査関係者への取材で分かった。

送検容疑は、今年3月17日と19日、岩手県産米「ひとめぼれ」9割に〇〇県産米1割を混ぜたブレンド米なのに、〇〇県産米のみの商品「〇〇育ちオリジナル米」の袋に入れ、直営店舗で客2人に販売したとしている。

捜査関係者などによると、JA〇〇は昨年6月以降、東日本大震災の復興支援のため、岩手県産米を仕入れ、この直営店舗で販売。1袋販売するごとに50円の義援金を被災地に送ってきた。しかし今年春以降、売り上げが落ち、「〇〇育ち」として計約1721袋を販売したという。

袋裏側の表記産地は通常「〇〇県内産」だが、岩手県産米を混ぜた袋は「国内産」で、販売直後から購入者の問い合わせが相次ぎ発覚。販売を中止し、返品に応じていた。

県は今年4月、日本農林規格(JAS)法に基づき、JA〇〇に原因究明や再発防止の徹底などを指示していた。

# 食中毒の発生事例

## 食品衛生法律違反

### 食中毒の発生並びに営業停止処分について(お詫び)

この度、当組合のJA〇〇で調理した**弁当からノロウイルスが原因の食中毒が発生**いたしました。

発症された皆様には多大な苦痛とご迷惑をお掛けしましたこと深くお詫び申し上げます。

また、食中毒の発生に関し、同施設は3月30日付で〇〇保健所から食品衛生法違反として、営業停止3日間の処分を受けました。

これについては、3月26日に、医療機関に食中毒の症状を訴える患者が複数受診されたことを端緒とし、その後、〇〇保健所の検査等が実施され、**食中毒の原因となるノロウイルスが患者並びに調理従事者から検出**されたこと、また、患者に共通した食事は同施設が3月24日に提供した仕出し弁当のみであったこと等から、同施設の仕出し弁当を原因とする食中毒と断定されたものであります。なお、3月24日に調理した他の仕出し弁当等についての食中毒様症状の発症の確認や報告等は、本日現在ございません。

食中毒の発生が確認された3月26日夕方以降、同施設は営業を自粛しておりましたが、経済事業改革の方針に従い3月31日をもって閉店いたしました。今後、仕出し事業についてはJA〇〇に一本化し、ご注文等を承ってまいります。

当組合では、日頃より食品を取扱う事業者として衛生管理の徹底に心がけてまいりましたが、この度、このような食中毒事故が発生させてしまい、組合員・利用者並びに関係者の皆様にご迷惑とご心配をお掛けする結果となり、改めて深くお詫び申し上げます。

この事態を厳粛に受け止め再発防止、食の安全・安心の確保に万全を期してまいります所存でございます。今後とも変わらぬご利用を賜りますようお願い申し上げます。



# 目 次

---

- ・ はじめに  
自己紹介
- ・ 私といわてJAグループとのかかわり  
3.11 災害支援が契機  
いわてJAグループのコンプライアンス・リスク管理  
危機管理・BCP・食の安全・安心等態勢整備を支援
- ・ いわてJAグループの食の安全、安心へのとりくみ実態
- ・ かかわって思う事  
これまでの反省とこれから

# 私と いわてJAグループのかかわり

私とJAいわてグループとの出会いは、2011.3.11発生の東日本大震災の被災地支援で、JAおおふなと、JAいわて花巻の現地に入ったことによります。

私は、①JAの被災状況の把握 ②被災時のJA事業の機能発揮状況の把握 ③JA事業継続状況の把握に力点を置きました。  
岩手での経験を静岡も含め、他の地域で生かしという思いからです。

その後、縁ありまして、JAいわて中央会からお声がけを頂き、JAいわてグループのBCP策定運用支援。コンプライアンス態勢整備、食の安全安心に関わる態勢整備に関わる支援をさせていただいき、現在に至っております。

本日は、事業継続の視点で、JAいわてグループでとりくんでいる 食の安全・安心態勢の整備に関して、私のとりくみを話題提供させていただきます。



2015.12.16

ARMS All Rights reserved



15

2011年  
4月上旬 1泊3日

知人からの要請メールに対応

岩手県陸前高田市へ  
箱型2トン車で物資を届ける



- ・下着 生理用品
- ・洗面用具
- ・洗剤
- ・自転車
- ・みかん等を満載

WEB上で呼びかけ

安否確認がとれない  
知人の消息確認  
Fb上で...



盛岡ー陸前高田  
97口 3時間

陸前  
高田



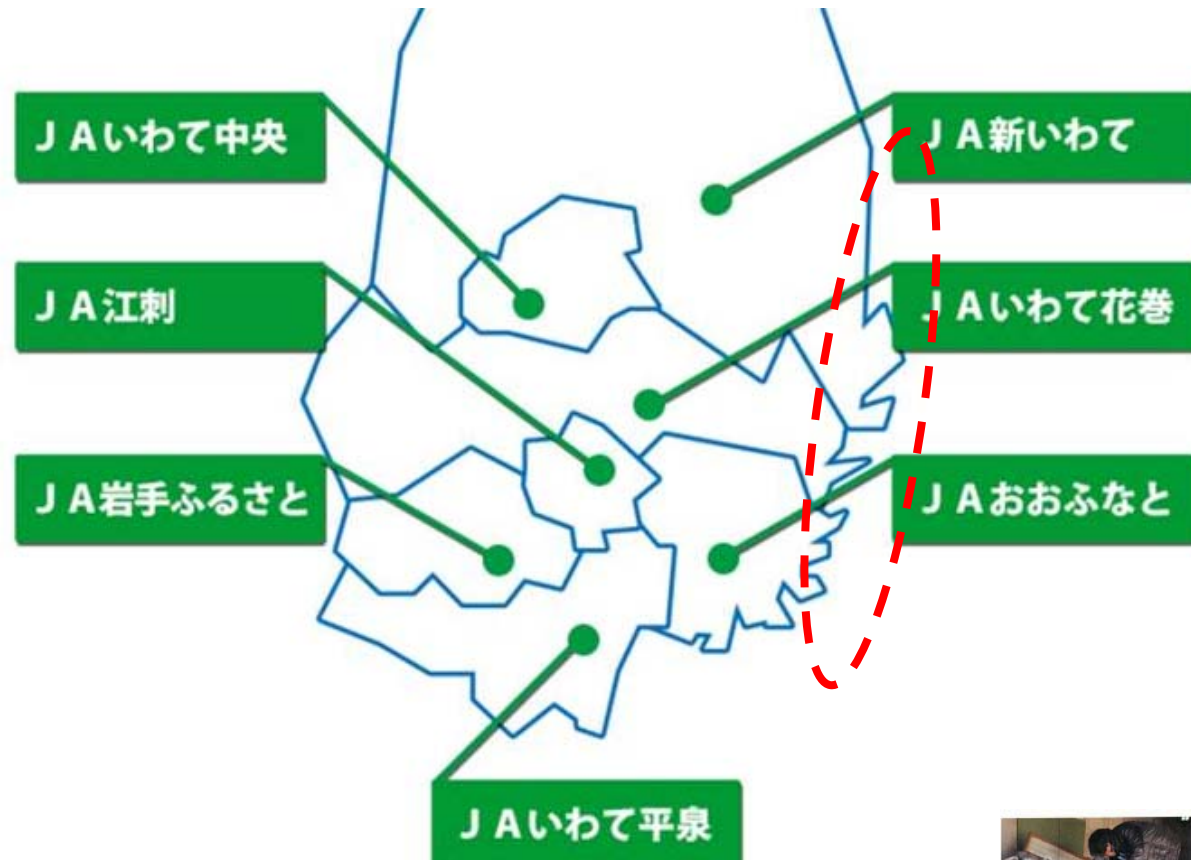
静岡ー盛岡  
730キロ 10時間



ARMS All Rights reserved



# 岩手県の単位JA



# 一般社団法人 レジリエンス協会 定例会報告

2012.11.12(月) 京都大学東京オフィス

---

国際協同組合年(International Year of Co-operatives=IYC)によせて

## 東日本大震災の発生とJAグループの対応 ～ レジリエンスの視点からの整理 ～

ARMS 代表

赤 堀 三 代 治



HOME

内容から探す

都道府県から探す

情報提供組織から探す

詳細検索

キーワード検索

検索

ご利用上の注意

## 農林漁業協同組合の復興への取り組み記録 ～ 東日本大震災アーカイブズ(現在進行形) ～

2011.3.11東日本大震災・福島第一原子力発電所事故は、広域にわたり農林漁業に甚大な被害をもたらしました。

このサイトは、農林漁業協同組合(農協・漁協・森林組合など)が震災・原発事故からの復旧・復興にどのように取り組んでいるかの情報を、過去・現在・未来にわたって記録し集積し続けるために開設した、いわば現在進行形のアーカイブズです。

ご利用上の注意

被災状況



支援活動



復旧・復興への取り組み



原発関連



更新情報 Update



RSS

更新情報一覧

すべて

被災状況

支援活動

復旧・復興への取り組み

原発関連

2012年06月28日 掲載 **被災状況** [宮城県におけるカキ養殖の震災被害と復興状況](#)

2012年06月28日 掲載 **復旧・復興** [宮城県におけるカキ養殖の震災被害と復興状況](#)

2015.12.10

ARMS All Rights reserved

ツイート 27

f Share 23

+1 6

m つぶやく

お知らせ News

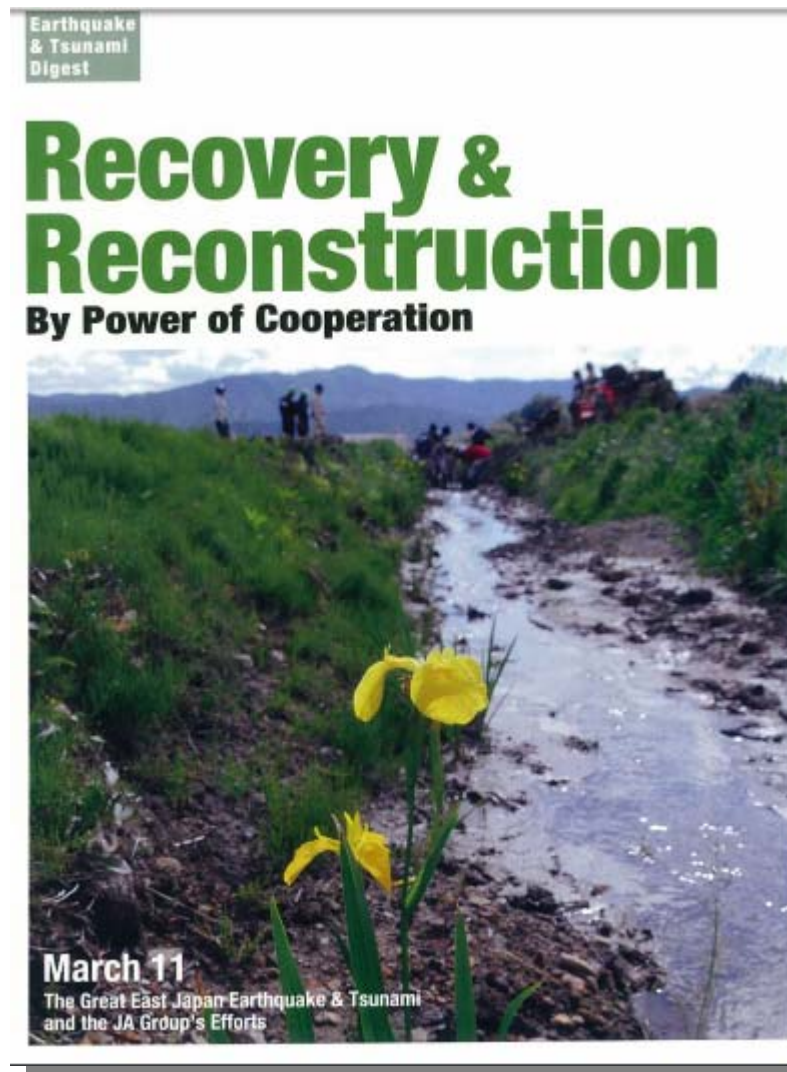
お知らせ一覧

2012年03月09日 掲載

[「農林漁業協同組合の復興への取り組み記録」開設にあたってのご挨拶](#)

出典: JA全中HP

19



# 東日本大震災へのJAグループの対応状況

JAグループの支援 (発災時から平成23年4月13日まで)

## ■緊急物資支援

全国のJA等より被災地に対して無償により、  
食料(およそ米370トン、食料品30万食、飲料水50万リットル、野菜・果物580トン)  
生活用品(マスク・タオル170万枚)等々、物的支援



## ■人的支援

「JAグループ支援隊」(ボランティア)による支援  
被災JA等の人的支援の要望に対応するため、  
全国のJAグループの役職員から復旧作業用のボランティアを募集し、  
がれき撤去や清掃、農業施設の修復など、  
被災地のニーズに応じた農業関連支援を実施し、  
震災から1年、派遣者数は2,177人、延べ11,163人/日



支援の連絡調整のために、全中からと山形、秋田、新潟のJA中央会役職員を、  
被災3県(岩手・宮城・福島)に派遣。

# 東日本大震災へのJAグループの対応状況

---

## ■イベントによる支援

農業・農村ギャラリーにおける風評被害応援イベント

## ■義援金

「JAグループ復興・再建義援金」を創設し、  
JAグループ各組織から総額**100億円**を集め、  
被災農業者・JA等の事業基盤の復興・再建支援に役立てられている。

## ■募金

JAグループ役職員を中心に取り組んだ  
「JAグループ復興支援募金」 **15億円**

## ■事業におけるサポート

＜経済事業関係＞

＜共済(保険)関係＞

＜金融関係＞

＜医療関係＞

## ■放射性物質による農汚染対応

被害賠償金請求手続き窓口機能 農地除染対応

## ■農地復旧支援



## Relief activities

# Food and other supplies rapidly delivered 11.6 billion yen in donations raised

## Free food supplied to afflicted areas

|               |                |
|---------------|----------------|
| Polished rice | 350 tons       |
| Vegetables    | 600 tons       |
| Meals         | 320,000 meals  |
| Beverages     | 350,000 liters |



## Toward Restoration and Recovery

Mutual Assistance at JA

**Rice balls with best wishes** Members of Women's group in JA Shin-Fukushima making rice balls for 2000 persons (March 14, Fukushima City)



**Maintaining lifeline**

Upper right: JA Group Yamagata personnel making "bunny & rice" for disaster victims (March 11, Higashi-Matsushima City, Miyagi Prefecture)  
Lower right: Staff from Saito Central Hospital of Iwate Prefecture inquiring about the health of disaster victims (April 4, Ishinomaki City)  
Left: Vehicle being refueled with petrol-charger pump at JA Minami-Sanriku's refueling station (March 23, Kamaishi City)



**The rice is here!**

Junior-high school students in Kamaishi City carrying relief rice donated by JA Iwate (March 22)

thquake and tsunami, the disaster-  
in immediate need of food, daily  
er everyday commodities to tide

co-operative organizations to main-  
communities JAs in afflicted area

as on food and everyday goods.

in all prefectures participated in  
polished rice, retort-pouched  
as well as undergarments, blan-  
ap, cotton gloves, portable toilets  
supplies. The Emergency Central  
reat East Japan Earthquake &  
o delivered "Pearl Rice" and

orts, JA members, officials and  
oined together in the JA Group  
ndraising Drive that lasted from  
ith each JA placing a collection  
tion. The National Council of Ag-  
'outh Associations and the Na-  
ral co-operative Women's Asso-  
the help of prefectural organiza-  
untry. Encouragement from co-  
nd the goodwill of the Seikatsu  
erative Union and overseas cose  
a nationwide total of 1.5 billion

Reconstruction Donation Fund  
the relief money raised. The pur-  
to aid the quick recovery of JA

infrastructure that constitutes a foundation for the liveli-

hoods of agricultural  
producers and local  
residents. A total of  
10.1 billion yen (135  
million USD) was col-  
lected from JAs nationwide.

prefectural federations and

er, and the funding presented to Miyagi, Iwate, Fuku-  
shima, Ibaraki, Chiba and Tochigi prefectures. This  
money has been utilized to rebuild damaged JAs and pre-  
fectural unions and federations, and to restore and  
recover agricultural infrastructure in the areas affected by  
the disaster.



JA Group Miyagi supplying rice balls to boost the spirits of disaster victims  
(March 22, Yamato Town, Miyagi Prefecture)



# 東日本大震災へのJAグループの対応状況

## 対応事例

### <米穀事業>

- ・全農は、レトルト米飯・ペットボトル飲料をはじめとする食料品や毛布・マスク等の生活用品を支援物資として提供、その総額は34百万円に及んだ。なお、支援物資は、水産庁の用船で東北へ送られた。
- ・また、被災地で製造不能となった精米工場の代替として近隣の全農県本部から精米製造出荷支援を行ったほか、被災地への炊き出しの実施、JA保有施設等で被災した。
- ・構築物の被害査定に係る要員の派遣、JAの米倉庫等で「はい崩れ」した米穀の修復、作業要員の派遣等、人的支援にも力を入れた。



2015.12.16

ARMS All Rights reserved



出典: JA全中HP

24

# 東日本大震災へのJAグループの対応状況

## 対応事例

### <畜産事業>

飼料供給においては、北日本くみあい飼料(株)の八戸・石巻両工場が大きな被害を受け、東北地区における飼料供給能力が大幅に不足することになった。

震災直後は飼料供給が滞り畜産農家に不安が広がったが、この事態を早急に打開するため各地の系統飼料工場による緊急支援体制を立ち上げ、北海道・九州など他地域のくみあい飼料工場からの緊急振替輸送69千トンにより、東北地区への飼料供給が確保された。

**過去発生の「BSE」「鳥インフルエンザ」「口蹄疫」による学習効果がおおきかった。  
備えがあった。**



2015.12.16



ARMS All Rights reserved



25

# 東日本大震災へのJAグループの対応状況

---

## 対応事例

### <共済事業>

- ・JA共済連による共済金の支払いは被災地域組合員にとって大きな安心材料になった(被災地JA聞き取り調査による)。
- ・JA共済連の東日本大震災に伴う共済金の支払額は2012年2月10日現在で、**8,600億**円を超え、民間保険・共済の支払額のうち最大額となっている。  
(民間損害保険会社の東日本大震災による地震保険支払い合計は2012年2月1日現在で752,249件、**12,081億**円である:日本損害保険協会調べ)



2015.12.16

ARMS All Rights reserved

出典:JA全中HP

26



# 東日本大震災へのJAグループの対応状況

ご遺体  
安置所

JAの初動に  
課題あり



葬祭業務は...

ご遺体  
埋葬場  
(土葬)

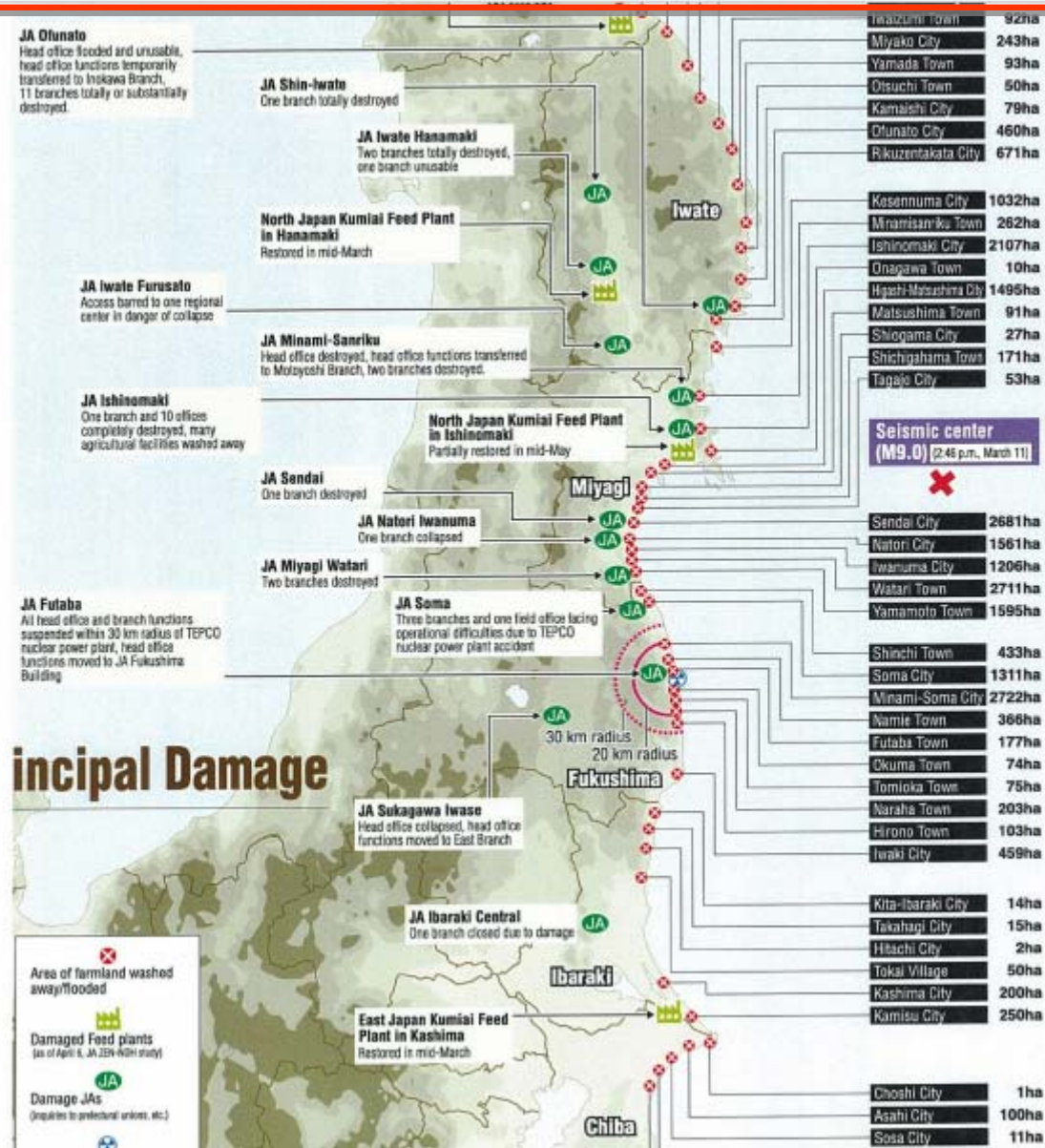


ARMS All Rights reserved

写真: 陸前高田市役所



# JAグループ被災状況



2015.12.16

ARMS All Rights reserved

出典: JA全中HP

28

# 東日本大震災への農業被害の状況

第1表 東日本大震災における農業被害

(単位 億円)

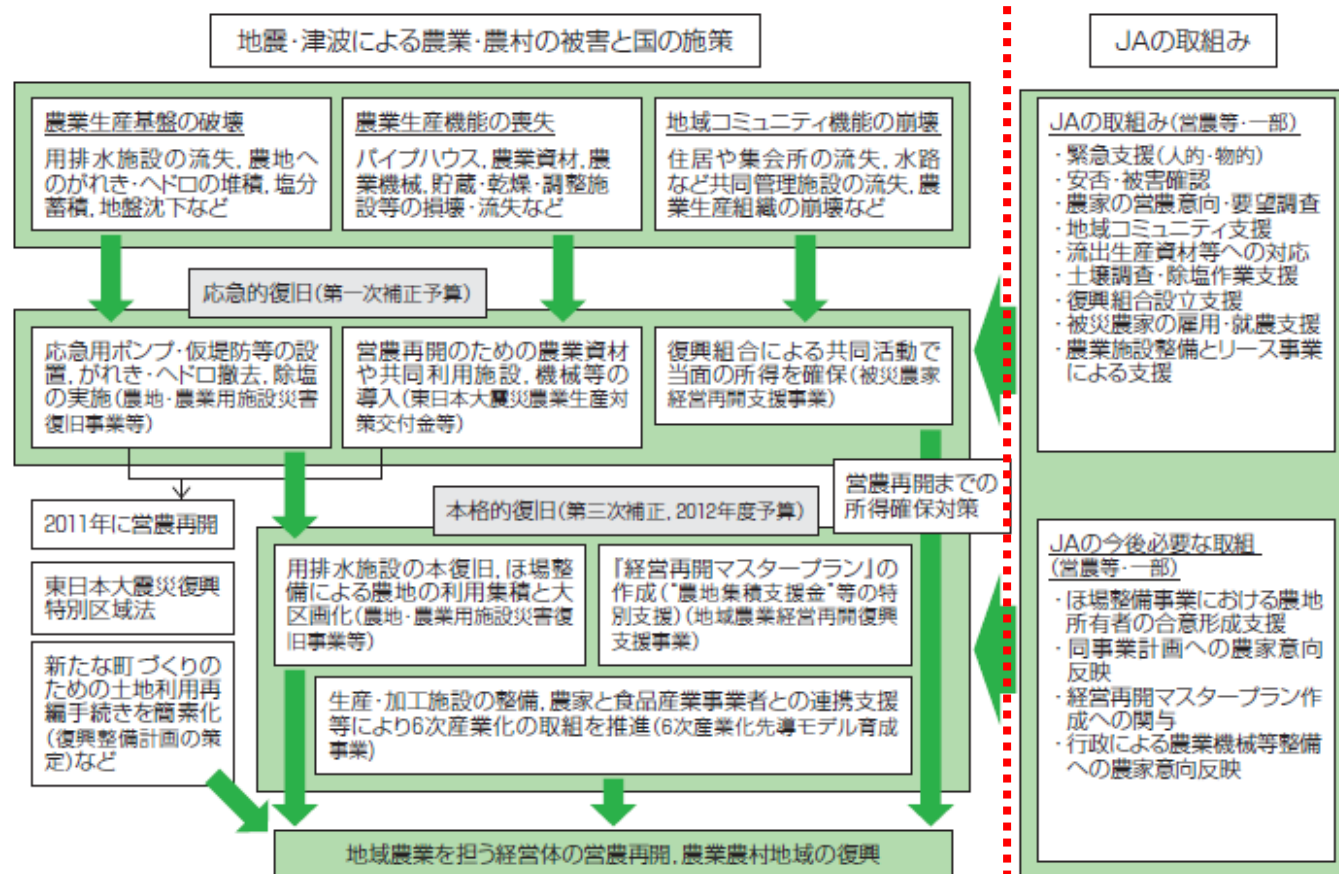
| 区分       | 主な被害                                                               | 被害額   |
|----------|--------------------------------------------------------------------|-------|
| 農地・農業用施設 | 農地の損壊                                                              | 4,012 |
|          | 農業用施設等の損壊                                                          | 4,290 |
|          | (農業用施設等:主に,ため池,水路,揚水機,農地海岸保全施設)                                    | 3,658 |
|          | (農村生活関連施設:主に,集落排水施設)                                               | 633   |
|          | 小計                                                                 | 8,302 |
| 農作物等     | 農作物,家畜等                                                            | 140   |
|          | 農業・畜産関係施設等(農業関係施設は,主に,カントリーエレベーター,農業倉庫,パイプハウス等。畜産関係施設は,主に,畜舎,堆肥舎等) | 487   |
|          | 小計                                                                 | 626   |
| 合計       |                                                                    | 8,928 |

資料 農林水産省「東日本大震災について～東北地方太平洋地震の被害と対応～」(1月25日更新)

# 東日本大震災へのJAグループの復興対応状況

復旧・復興に力を発揮

第1図 農業・農村の復興に係る国の施策とJAの取組み



資料 東北農政局資料にJAの取組み部分を筆者が追加し, 作成



## JA Assistance Teams

**Officials and employees nationwide converge on disaster-hit areas to join in struggle to restore JA facilities and agriculture**



JA Assistance Team engaged in the sweaty work of restoring a paddy field damaged by the tsunami (July 21, Rikuzentakata City, Iwate Prefecture)

As we gave serious thought what we could do for the regions hit by the disaster, we recruited volunteers from the



A strawberry farmer (right) and a JA Assistance member work together to pull away a mulch sheet clearing mud out of the furrows (May 24, Watari Town, Miyagi Prefecture)

the earthquake, putting their commercial value at risk assistance teams made up of personnel from JA Zen



JA Group Assistance Team JA Group personnel assigned to clear mud and debris from water channels in Rikuzentakata City, part of the cleanup of JA Otsuka in Iwate Prefecture; as of the end of July, 1700 personnel have been engaged in efforts scheduled to continue until the end of October (June 16)



Rebuilding a debt of gratitude JA Miyazaki Prefectural Union Chairperson Toshikazu Morinaga (far right) and other JA chairpersons from Miyazaki Prefecture engaged in restoration efforts to return the favor for assistance provided during Miyazaki's rice-and-mushroom earthquake (July 1)



Rebuilding strawberry production area JA Assistance Team assigned to restore green house for strawberry in Watari Town, Miyagi Prefecture (upper photo, July 7; JA Assistance Team righting a toppled fertilizer (lower photo, June 7)





# JA 宮城亘理



被災した園芸施設

## 被害状況

- ハウス96haのうち91ha (95%)が被災
- 生産者380戸のうち356戸が被災

## これまでの取り組み

- 1 平成25年度までに、約40ha、180棟以上の大型ハウス団地が完成
- 2 従来の土耕栽培から養液栽培に切り替え、いちご選果場も再整備
- 3 平成25年11月から本格的に出荷を再開



いちご団地 (写真提供 / JAみやぎ亘理)



いちご選果場



被災した選果場



ハウスでのいちご栽培の様子 (写真提供 / 宮城県農林水産部農業振興課)

## 組合員数

正組合員数4,282人

准組合員数1,575人

合計5,857人

## 役職員数

役員21名

職員152名

ARMS All Rights reserved

ARMS All Rights reserved

出典: JA宮城亘理HP

平成26年度JAしみず女性部滝原支部研修会  
『自然災害対策研修会』 次第

日時：平成26年8月8日（金） 18:30  
場所：JAしみず滝原支店 2階大会議室



JAみやぎ亘理  
女性部のみなさん



伊藤 片岡 木村



出典：JA全中HP 他

33



ARMS All Rights reserved

ARMS All Rights reserved



# JAグループとしての課題(赤堀私見)

- ・JAグループは、組織力・資金力を背景に、震災対応(緊急対応、現在も含めた復旧・復興)に確かに力を発揮していると思う。
- ・しかしながら、大規模災害対応に関して、  
平時から質的にさらに高い水準のBCP・BCM・BCMS等に組織的にとりこんでいたら、  
他の協同組合等との連携に基づく平時の準備がもっとできていたら、  
さらなる力を発揮できたのではないか、という思いにかられる。
- ・共済事業の対応ぶり、畜産事業等の対応ぶりは素晴らしかったと思う。  
備えがあったからこそと考える。  
組合員も含めたすべての構成員をまきこんでJAグループとして、  
これらの事業と同様な平時の準備が、すべての部門でされていたら、  
JAグループとして、緊急対応さらに復旧・復興対応により力を発揮できたのではないか。
- ・今回の震災から学ぶべきことは多い。  
大規模災害対応のBCP(事業継続計画)・BCM(事業継続管理)・  
BCMS(事業継続管理システム)の概念は、  
これまで、JAグループ内では、どちらかというと希薄であったが、  
今回の震災を教訓に、ぜひ普及させていきたい。

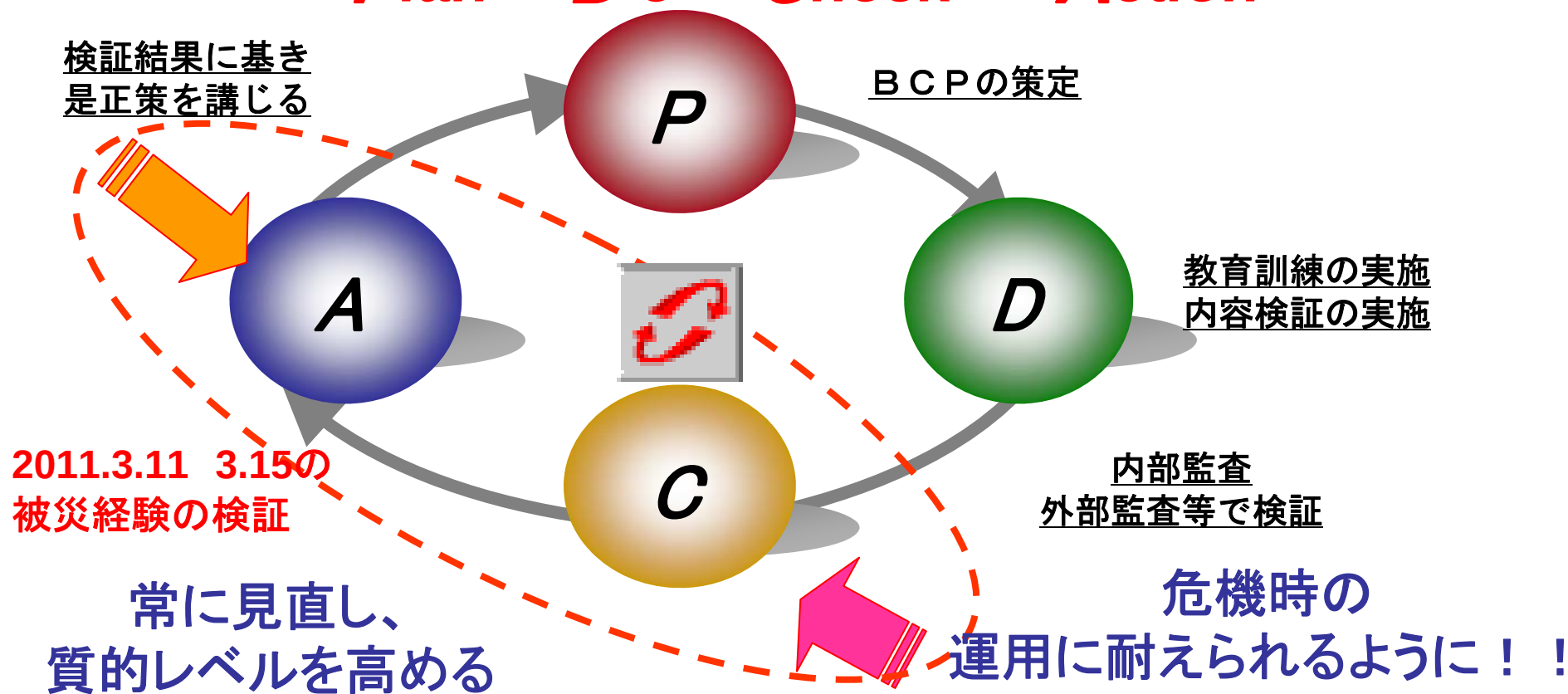
「あってよかった」と組合員から期待されるJAであるためにも・・・

# BCMのとりくみの大切さ

## ～ BCPの継続的改善を図っていきたい～

マネジメントサイクル(PDCA)に基づきステップバイステップで  
継続的に質的向上をめざしていきたい

**Plan → Do → Check → Action**



2015.12.16

ARMS All Rights reserved

35



## 東海

## つなぐ

## 東日本大震災から3年目へ

元JA静岡経済連の職員、く意識したきっかけは、2009年8月11日に静岡県駿河湾沖で発生した、静岡県地震。最大震度6弱を記録した大きな地震だ。赤堀さんは当時、静岡経済連でコンプライアンス(法令順守)やリスク管理業務に携わっていたが、「恥ずか

## 防災計画は役割明確に

## 静岡と東北 静岡市清水区の赤堀三代治さん

赤堀さんは特に「職場や地域の仲間全員が意見を出し合い、一人一人の役割を明確にすることが大切だ」と強調。二部の人だけで作った防災計画では、誰かがやるだろう、で終わってしまう」と懸念する。

赤堀さんが防災対策を強

いたはずだが、何が足りな

かったのか。事業所で協議し、即座に役員全員に①被災時に何を感じたか②何が欠けていたか③災害時に事業を続けるために何が必

要か―を聞き、事業継続計画(BCP)を策定した。その結果、赤堀さんは「東日本大震災の発生時には、混乱なく的確な対応ができるようになっていた」とみる。

大震災発生後の11年4月、被災地支援のため、岩手県陸前高田市を2ノトラックで訪れた。その後も被災地を訪れる中で、津波で大きな被害を受けた、食品加工会社の経営者と話す機会を得た。

赤堀さん自身、東日本

経営者は津波で工場を失



リスク管理について訴える赤堀さん(静岡市駿河区で)

JAグループ一体が鍵  
BCP策定・普及を

東京で講演

リスクマネジメント(危機管理)の専門家であるJA静岡経済連職員の赤堀三代治氏が12日、東日本大震災の発生とJAグループの対応について東京で講演した。震災時JAが力を発揮した面もあるが、JAが一丸となった事業継続計画(BCP)は希薄だと指摘。BCP

の策定を組織内で進め、震災時の被害低減に努めるよう訴えた。BCPとは自然災害や疫病などの緊急時においても事業を継続するための計画。

赤堀氏は、JAグループは組織・資金力を背景に震災後の対応について「力を発揮した」と強

調。特に震災直後の共済事業の対応や、JA全農が被災地に向けて行った畜産の飼料輸送などの取り組みを高く評価した。ただ、被災時の備えについては苦言を呈した。JAグループ全体でBCPを取り入れていれば、「さらなる力を発揮し、被害を減らせた」とし、

東日本大震災を機にBCPを組織内に普及させよう提言した。

震災の教訓として、県内JAグループにおける関連機関の強化・対力の向上②講習会、研究会を通じ県内JAグループ構成員の減災に関わる意識啓発③居住地域で防災・減災活動に積極に関わる―ことが必だとした。

赤堀氏は「東海地域人口が密集しており、地震が起きれば、壊滅的な被害が出る可能性が

# JALみずのBCPの今後....

---

## 3か年計画の中で具体的に詰めたい

- ◆ JA事業重点業務に関する具体的対応策のつめ  
(特に 経済 食糧 葬祭 等 )
- ◆ 他県JA等との災害相互支援協定の締結
- ◆ 支店・事業所の災害時支援拠点としての位置づけ
- ◆ 役職員・組合員の防災・事業継続(減災)  
意識啓発
- ◆ 組合員BCP支援                      女性部・青壮年部の力 に期待

# 目 次

---

- ・ はじめに  
自己紹介
- ・ 私といわてJAグループとのかかわり  
3.11 災害支援が契機  
いわてJAグループのコンプライアンス・リスク管理  
危機管理・BCP・食の安全・安心等態勢整備を支援
- ・ いわてJAグループの食の安全、安心へのとりくみ実態
- ・ かかわって思う事  
これまでの反省とこれから

# いわてJAグループ「食の安全・安心」 態勢整備への取り組みの背景

---

- ・ 食品安全基本法は、農林水産物の生産から販売に至る食品供給行程の各段階において、食品の安全性の確保に関する必要な措置を適切に講じることが求めている。
- ・ 日本の農畜産物の供給県「**純情産地いわて**」として、「食の安全・安心」確保への責任が求められてる。
- ・ 「食の安全・安心」にかかわる生産現場とJA関連部署（営農経済・産直・加工施設・リスク管理・広報・監査等）の連携によるとりくみを強化し、「食の安全・安心」に関わるリスク管理・危機管理に関しての対応力の向上を図る。
- ・ 「純情産地いわて」ブランドの継続性を確保する。



# 岩手県の農業生産額

岩手県の農業は、広い県土と変化に富んだ気象・立地条件を生かして、米、園芸、畜産を巧みに組み合わせた総合産地化が進んでいます。

主要農産物の生産は全国上位にランクされており、我が国の総合食料供給基地を目指しています。

生産額2,287億円（平成24年） 静岡2,138 愛知3,084 長野2,347 北海道10,705 茨木4,356 千葉4,141

|       | 収穫量       | 東北順位 | 全国順位 |
|-------|-----------|------|------|
| 米     | 297,600トン | 第5位  | 第10位 |
| ピーマン  | 7,190トン   | 第1位  | 第5位  |
| りんご   | 48,900トン  | 第2位  | 第3位  |
| 葉たばこ  | 2,828トン   | 第2位  | 第4位  |
| ホップ   | 155トン     | 第1位  | 第1位  |
| 肉用牛   | 112,900頭  | 第1位  | 第5位  |
| 乳用牛   | 47,600頭   | 第1位  | 第3位  |
| ブロイラー | 102,180羽  | 第1位  | 第3位  |

## 純情ブランド



### ■ 純情ブランドについて



イーハトーヴが生んだ純情ブランドについて、ご紹介いたします。

▶ [純情ブランドについて](#)

### ■ いわて純情米



丹誠込め育てたお米、「いわて純情米」についてご紹介いたします。

▶ [いわて純情米](#)

### ■ 純情野菜



### ■ 純情りんご



2015.12.16

ARMS All Rights reserved

41

# 「純情産地いわて」

# 食品安全基本法に基づく事業者・生産者としての責務

平成15年施行

## 第6条～第9条 国、地方自治体及び食品関連事業者の責務と消費者の役割

行政

### <行政の責務>

- ①消費者の視点に立った生産から消費までの全体を考えた施策の推進
- ②リスク管理の強化
- ③食に関する情報交換の推進
- ④食に関する教育活動「食育」の推進

消費者

### <消費者の役割>

- ①「食」について考える習慣を身につける
- ②知識と理解を深め、施策について意見を表明するように努める
- ③生産者や事業者との交流を深める

事業者

### <事業者の責務>

- ①関係法令等を遵守し、製造・加工、流通段階における食品の適切な衛生管理の確保
- ②環境負荷の軽減に関する配慮
- ③品質表示等の正確な情報提供
- ④消費者との相互理解を深める

食品関連事業者

生産者

### <生産者の責務>

- ①関係法令等を遵守し、安全で良質な農林水産物の生産と出荷
- ②生産履歴情報の正確な記録と積極的な開示等
- ③生産環境の保全に配慮する
- ④消費者との相互理解に努める

農薬取締法・飼料安全法・JAS法・食品衛生法等の遵守  
生産履歴情報の記録保管 GAPの導入.....

<食品安全基本法を基に加筆整理 赤堀>

2015.12.16

ARMS All Rights reserved

42

# 農産物直売所リスクに関するマスコミの関心

日経ビジネス  
2011.01.31  
オンライン  
2011.02.03





時事深層  
2011年2月3日(木)

農作物直売所は「安全」か

Author 池田 信太郎（日経ビジネス記者）

Keyword 直売所 安全性 残留農薬 管理体制 農作物 かしわで

ブックマーク Twitter mixiチェック 1/2ページ

「安心・安全」を標榜する農作物直売所が揺れている。年商10億円の人気店で残留農薬の問題が浮上。直売所が抱える構造問題を浮き彫りにした。

「お客様を裏切ったということになる。6年半の信頼はゼロになった。これまでうまくいきすぎていたからね。やり直しです」

農作物直売所「かしわで」を運営するアグリプラス（千葉県柏市）の染谷茂代表は肩を落とす。

かしわでは、年10億円を売り上げ、年間50万人が利用する直売所。近隣のスーパーマーケットは「青果の販売に大きな影響を受けた」と口を揃え、直売所の成功事例として多くの視察を受け入れてきた。「安心・安全」を標榜して消費者の支持を集めてきた



商品に生産者名を表示するなど「安心・安全」の実現

2015.12.16

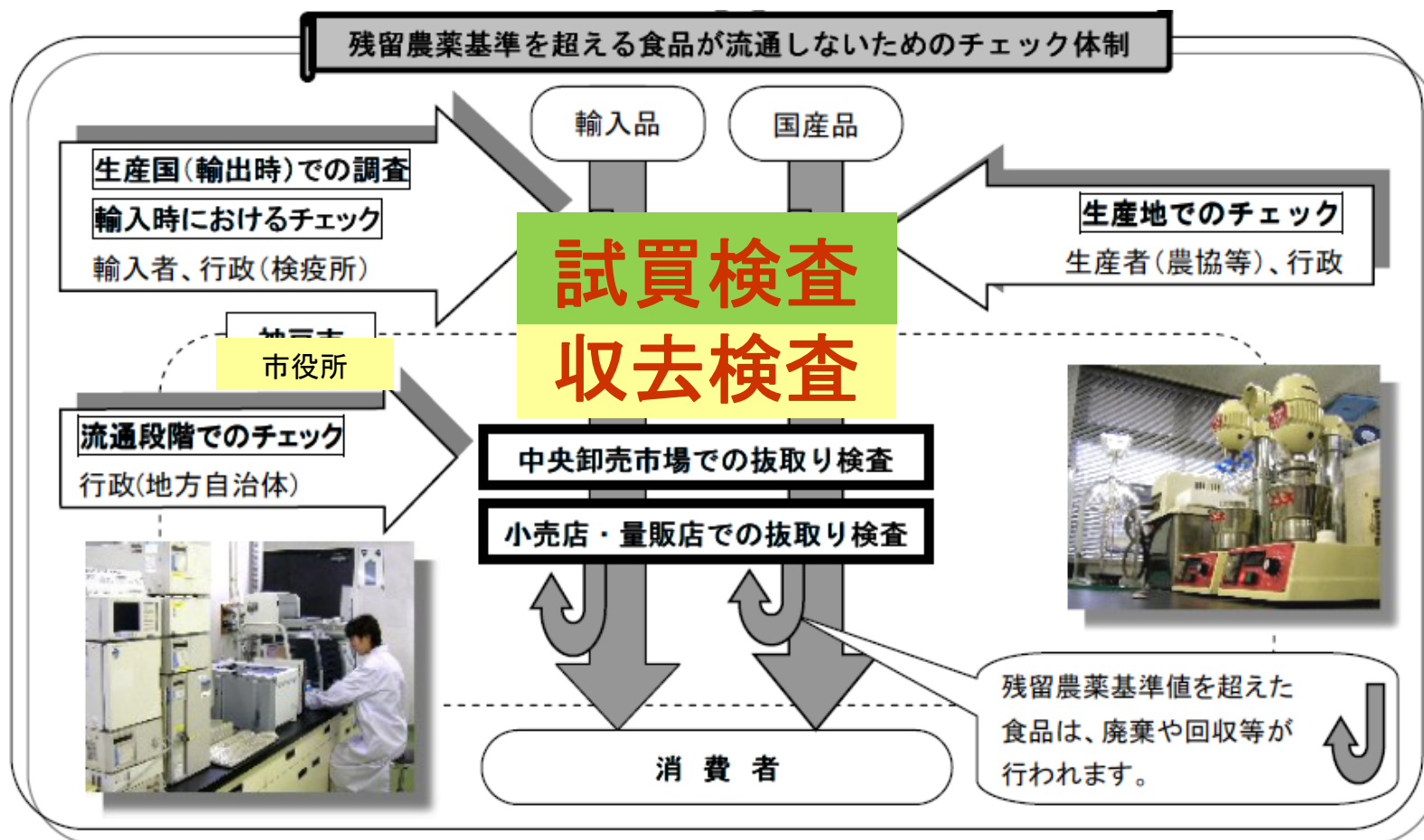
ARMS All Rights reserved

43



# 食の安全性に係わる行政の取組の強化

## 残留農薬のチェックに関して



出典：神戸市市役所HPから引用

# 食品の安全性確保にむけての プロセス管理イメージ 1

生産現場・食品取扱現場に  
管理ツールとしてのGAP・GDP・GMP・GRPの導入を進める

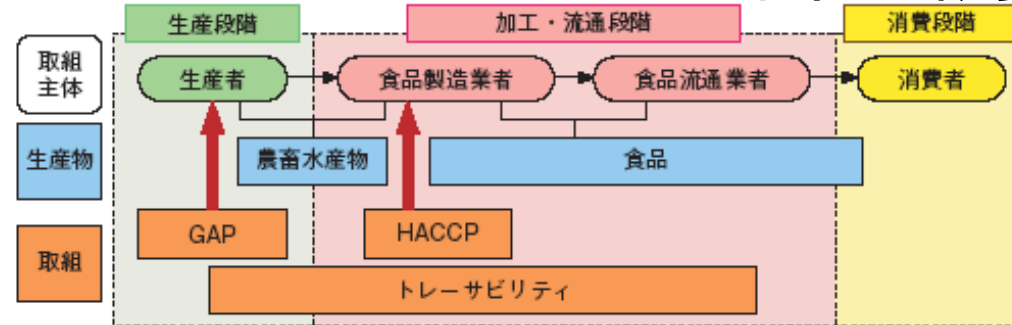


GAP good Agricultural Practice  
GDP good Delivery Practice  
GMP good Manufacturing Practice  
GRP good Retail Practice

JA静岡経済連情報 2006.5に加工作成

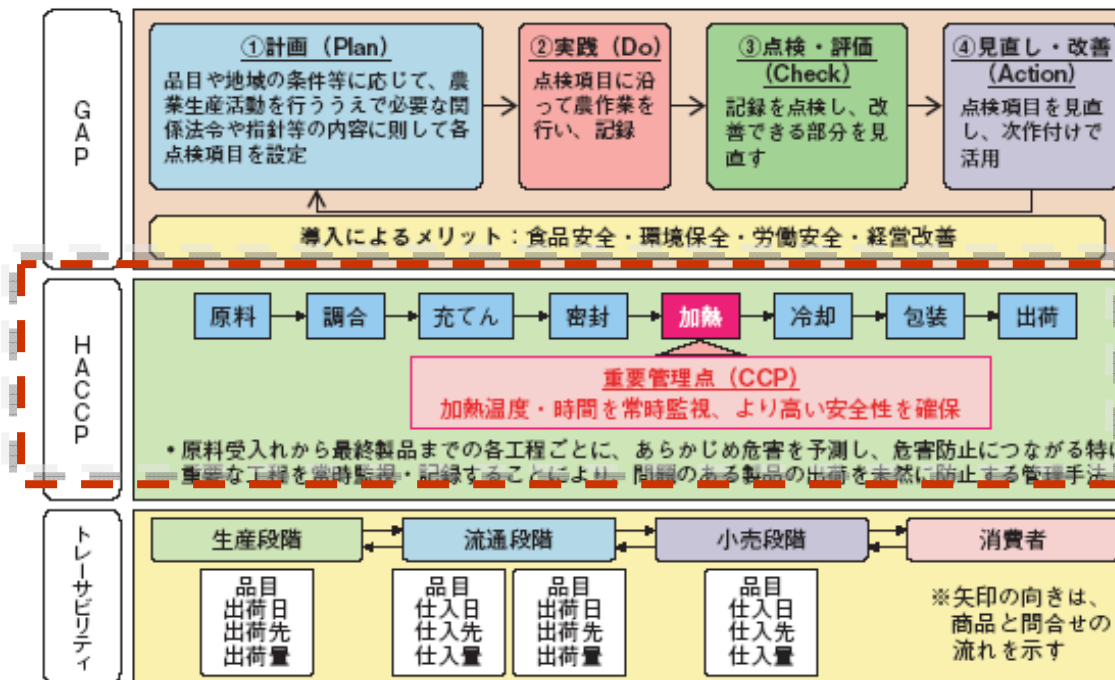
# 食品の安全性確保にむけての プロセス管理イメージ 2

## フードチェーンにおける取組の概要



農業生産工程管理(GAP: Good Agricultural Practice)

農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のこと



## HACCP

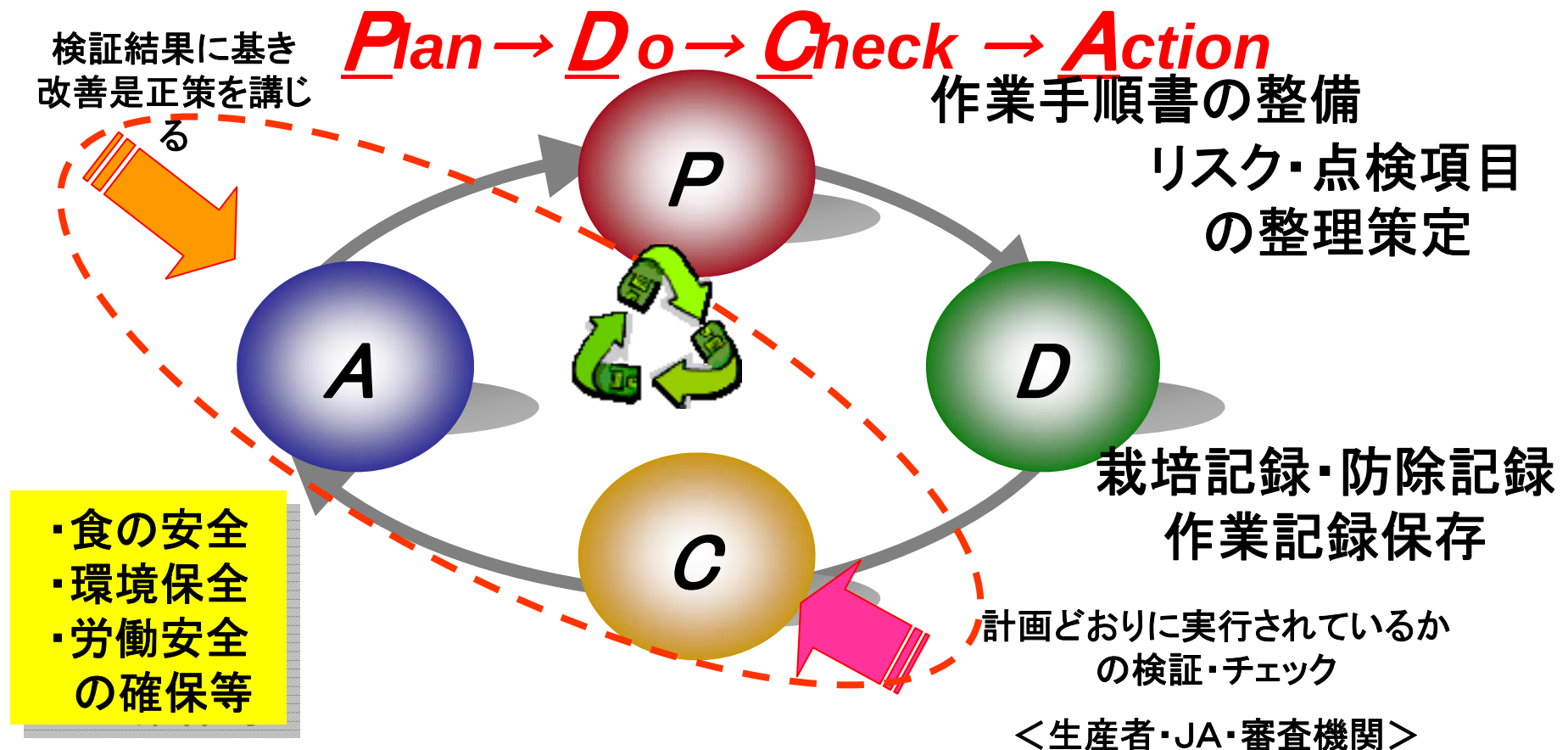
(Hazard Analysis and Critical Control Point)

食品を製造する際に工程上の危害を起こす要因(ハザード; Hazard)を分析しそれを最も効率よく管理できる部分(CCP; 必須管理点)を連続的に管理して安全を確保する管理手法

# GAP: Good Agricultural Practice

農業生産現場において、食品の安全確保などへ向けた適切な農業生産を実施するための管理のポイントを整理し、それを実践・記録する取組み

**生産現場に意識の変換を！！**



2015.12.16

ARMS All Rights reserved

47



# 食の安全・安心 各段階における取組状況

|                              | 行政         | 食品取扱業者<br>J A  | 生産者      |
|------------------------------|------------|----------------|----------|
| 適正施肥・防除                      | 指導<br>検証   | 指導<br>検証       | 実施<br>検証 |
| 食品衛生<br>(残留農薬、異物混入<br>衛生管理他) | 指導<br>検証   | 指導<br>実施<br>検証 | 実施<br>検証 |
| 生産履歴<br>(含む農薬使用履歴)           | 記帳指導<br>検証 | 記帳指導<br>検証     | 記帳<br>検証 |
| 食品表示                         | 指導<br>検証   | 指導<br>実施<br>検証 | 実施<br>検証 |
| GAP<br>(生産管理)                | 指導         | 指導<br>検証       | 実施<br>検証 |
| GDP<br>(物流管理)                | 指導         | 実施             |          |
| GMP<br>(加工管理)                | 指導         | 実施             |          |
| GRP<br>(小売管理)                | 指導         | 実施             |          |

# 食の安全・安心に対策として留意したい事項

福井県農林水産部食の安全安心課HP「直売所リーダー必携」を参考に加筆作成。(http://info.pref.fukui.jp/shokuan/chokubai/tebiki-1.html)

## 関係者の意識改革を促す

### ＜出荷生産者＞

安全・安心な農産物を消費者に確実に提供するために、生産者がすべきことの徹底  
(食品安全基本法:生産者としての責務)

**意識に訴える。出荷生産者の意識水準・理解度水準・技術水準の差を考慮する。**

なぜ、的確な対応が必要なのか、トラブルが発生するとどうなるのか..

できる限り、具体的に伝える。

こうした取り組みの徹底にはコストも時間もかかる。

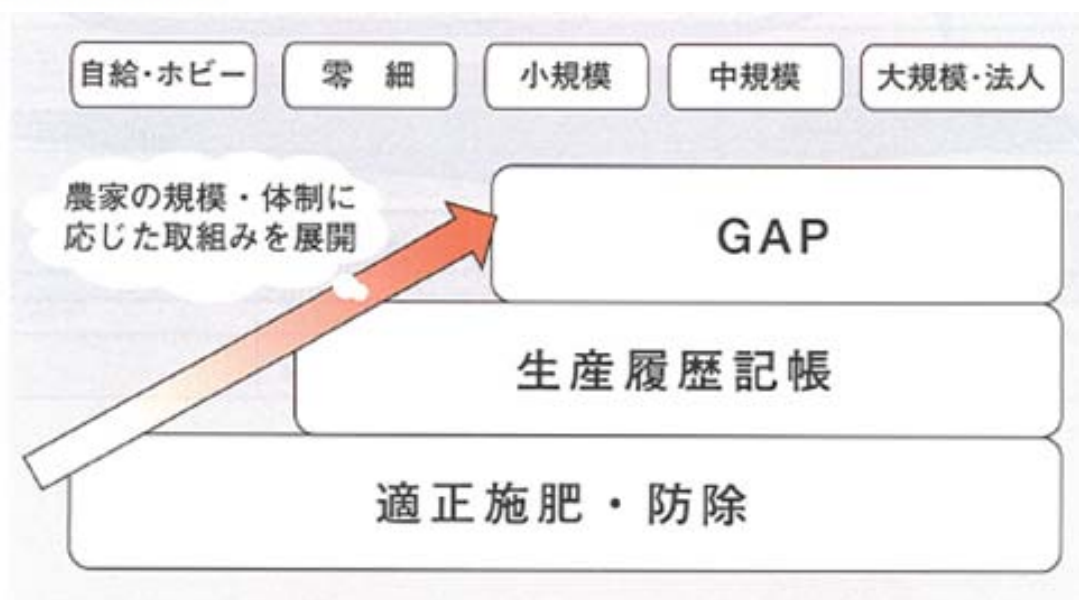
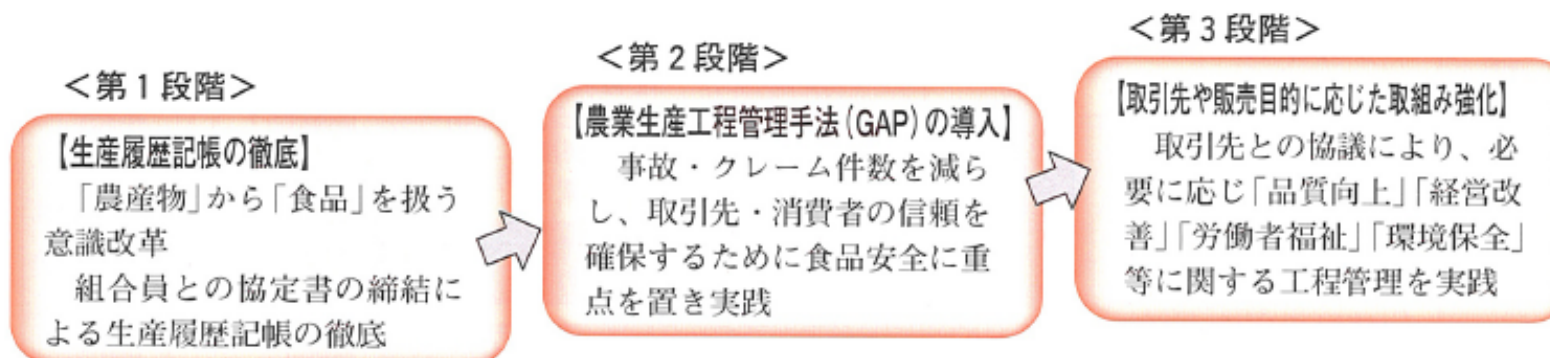
そのコストの一部は、当然生産者がもつべきもの。

継続的な研修会の実施。

生産現場のチェック 出荷組合・FMスタッフによる点検 残留農薬点検 等

JA内営農指導部門等との連携により実施

# 食の安全・安心に対するJAグループの取組み



JAファクトブック 2010 (JA全中) 2010.02

# 食料の安全・安心確保に向けたJAグループの取り組み状況の推移

|        | 内 容                                                                                                                                                                                                                             | 社会の動向                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2002年  | <p>取り組み方針決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産履歴記帳の徹底</li> </ul> <p>生産者が生産活動(農薬・肥料の使用情報など)の内容を生産日誌に記帳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な生産基準を設定</li> <li>・JAにおける分別出荷、消費者、取引先への生産情報の開示</li> </ul>       | <p>2000 雪印集団食中毒事件</p> <p>2001 日本ではじめてBSE発生</p> <p>2002 雪印食品・日本ハム牛肉偽装</p> <p>2003 米国産牛肉輸入禁止 食品安全基本法制定<br/>食品衛生法改定 JAS法改定</p> <p>2005 個人情報保護法全面施行</p> <p>2006 農薬ポジティブリスト制度施行<br/>公益通報者保護制度施行</p> <p>2007 国内鳥インフルエンザ発生<br/>不二家賞味期限切れ事件<br/>「白い恋人」賞味期限改ざん<br/>「赤福」製造日賞味期限不正表示事件<br/>「吉兆」偽装表示事件</p> <p>2008 中国冷凍餃子中毒事件 事故米不正転売事件</p> |
| 2009年  | <p>取り組み方針決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産履歴記帳を基本として、段階的に農業生産工程管理(GAP)への取組みを加速化する</li> </ul>                                                                                                                    | <p>2009 新型インフルエンザ感染広がる<br/>消費者庁設立</p> <p>2010 宮崎 口蹄疫発生</p> <p>2011 東日本大震災 福島第1原発事故</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
| 20012年 | <p>取り組み方針決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産履歴の記帳は進んだが、行政が求めるリスク管理手法の導入が十分でないと判断</li> <li>・生産や出荷、販売などで起こり得る危険を分析した上で対処するリスク管理の手法を導入。</li> <li>・2015年度までに全JAの全ての生産部会などで、リスクへの対策を示したルールを作成し実践している状態を目指す。</li> </ul> | <p>2013 食品表示新法案制定検討 2015年施行目途<br/>(食品衛生法、JAS法、健康増進法 統一化)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                    |



# 品質保証上求められる手順イメージ

| 農家区分       | 生産工程              | 加工・輸送・販売工程                                                           |
|------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 海外輸出をめざす農家 | GAP(グローバル)        | HACCP<br>FSSC 22000                                                  |
| 6次化をめざす農家  | GAP(Jギャップ)        | ISO 9001 ISO 22000<br>AIB(American Institute of Baking)<br>HACCP(県版) |
| 自立経営農家     | GAP(県版ギャップ)       | HACCP(簡易版)                                                           |
| 小規模農家      | 生産履歴<br>基本的衛生管理手順 | 基本的衛生管理手順                                                            |

 私の支援対象

リスク管理  
危機管理  
にかかわる  
手順の整理  
運用訓練

FM(直売所)  
衛生管理

# 私が支援してきた内容

| 区 分  |                 | 時間 | 内 容              |
|------|-----------------|----|------------------|
| 研修会  | JA経営層（常勤役員、監事）  | 半日 |                  |
|      | JA本店関連部署管理者     | 1日 | リスク管理・危機管理<br>WS |
|      | JA直売所、加工所管理者    | 1日 | リスク管理・危機管理<br>WS |
|      | JA直売所、加工所担当者    | 1日 | 衛生管理<br>WS       |
|      | 生産者代表           | 半日 | 生産履歴、表示、衛生管理     |
| 現場指導 | JA直売所、加工所、農家加工場 |    |                  |
| その他  | 危機管理訓練 支援       |    |                  |

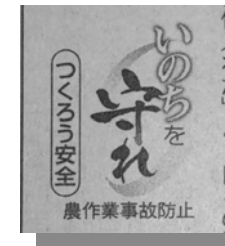
# トラブル回避のための基本的「確認作業」の徹底

## 『事故防止にむけて指差呼称の徹底を』

コンプライアンス・リスクアドバイザー 赤堀三代治

私は、元JAグループ職員で、現在は、コンプライアンス・リスクアドバイザーとして、全国のJA組織、生産現場ならびにJA以外の組織・現場に出かけて指導にあたっている。農家生産現場に出かけて感じることは、他産業の現場と比較して、リスク回避に向けての「基本的事項の徹底」がかなりゆるやかであること。農薬の希釈作業時、農機具の操作時等での指差呼称（しさこしょう・ゆびさしこしょう）、自らの目と指と声による「確認」を確実に実行している人を見かけるケースがむしろ少ない。事故防止にむけての取り組みは、メーカー、販売組織、指導機関等でそれぞれの立場から取り組んでいくべきであるが、交通機関の運転士が必ず実施している「指差呼称による確認」の徹底を現場に求めたい。

日本農業新聞掲載記事 2013.03.11



# 生鮮野菜の衛生管理

| 工程                                                                                 | 各工程での対策                                                                                                                                          | 施設の管理                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培に使う水の管理</li> <li>・家畜ふん堆肥の管理</li> <li>・農機具や収穫容器、資材の管理</li> <li>・収穫</li> <li>・調製</li> <li>・出荷</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場又は栽培施設</li> <li>・家畜ふん堆肥の製造・保管場所</li> <li>・調製・出荷施設</li> </ul> |
| 全工程                                                                                | ・野菜を取扱う作業者の健康及び衛生管理                                                                                                                              | ・手洗い設備・トイレ                                                                                             |

出典:

生鮮野菜を衛生的に保つために

-栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針-

平成23年6月 農林水産省消費・安全局

ウェブサイト「野菜の衛生管理に関する情報」:

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/>

[k\\_yasai/index.htm](http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/index.htm)

野菜を生産する際は、水や家畜ふん堆肥、作業者の手などを通じて、野菜が食中毒を起こす微生物に汚染されてしまう可能性がある。

(腸管出血性大腸菌やサルモネラなどの細菌、ノロウイルスなどのウイルスなど)

特に生で食べる野菜は、その生産段階でも、食中毒を起こす微生物を「付けない」「増やさない」ための衛生管理が必要



# リスク管理 事例

## まな板 衛生管理 用途別識別管理



カラフルなインデックス付きのまな板セットは、デザインがおしゃれなだけでなく、インデックス部が出し入れ用のつまみになるので使いやすさも抜群。

インデックスをつまんで出し入れは簡単



火を通す前の肉・魚類の下ごしらえや、フレッシュなまま食べる野菜やフルーツなどを分けて調理できるので、いつでも衛生的な調理を叶えてくれます。



2015.12.16

COCONIALHPから抜粋

ARMS All Rights reserved  
<http://www.coconial.com/products/detail101.html>

56

# 食品取扱い事業者としての責務の再確認

---

- ・ 安全・安心な農産物を消費者に確実に提供する  
JAとしての責務と役割を再確認  
(食品安全基本法：食品取扱事業者としての責務)

生産者への指導責任

食品取扱事業者としての消費者に対する品質保証責任

- ・ 「食の安全・安心」に関する取り組みはJA全体の課題

「食の安全・安心」は、JA全体の課題、  
という認識をすべてのメンバーが持つ

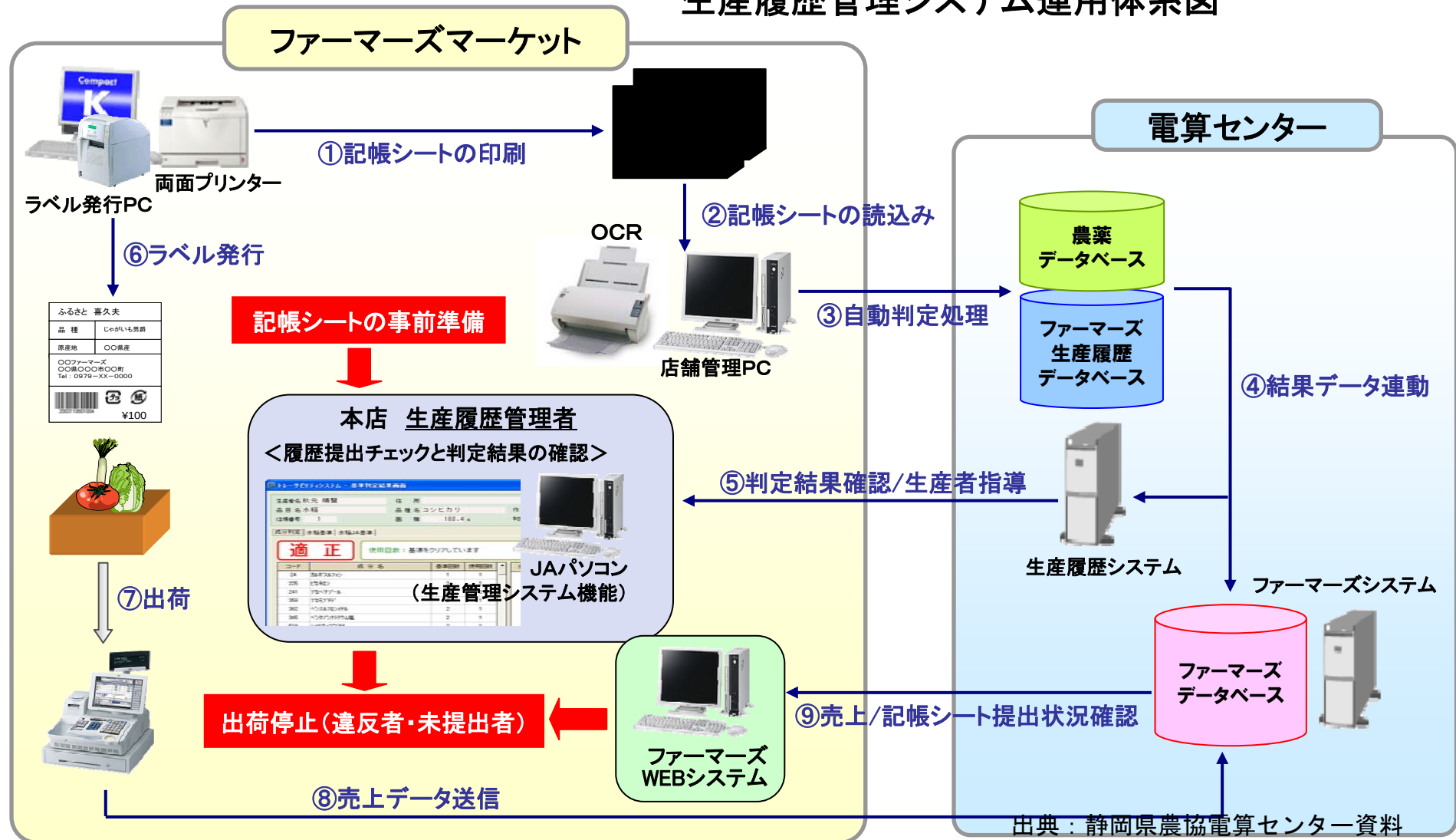
「安全・安心に関しては、私の仕事ではない....」  
すべてのメンバーのこの意識を変える

- ・ 関連部署による連携を密にした取り組みが不可欠

コンプライアンス・リスク管理統括部署-営農経済部署他

# ファーマーズマーケット生産履歴管理システムによる取組み

生産履歴管理システム運用体系図



# 残留農薬のチェック 自主点検検査

- ・取り扱い品に関する  
リスク性を考慮した  
年間計画に基づく抽出検査

- ・検査精度向上にむけた  
県下JA検査担当者研修会の実施



農産物安全分析センター



残留農薬の分析を行う参加者

【静岡・大井川】JA静岡経済連農産物安全分析センターは、沼津市のJAなんすん土曜農業分析センターと、藤枝市のJA大井川分析室で精度向上研修会を開いた。静岡県内の各JAは農産物の安全を守るため残留農薬分析施設を設置しており、生産者から出荷された農産物の残留農薬検査を行っている。研修は、検査に当たるJA担当者らの分析精度向上と情報交換を目的に行った。

研修では実際にスライカドテクの橋本樹之さん（静岡市）の検体を使って、イムノアッセイを用いた残留農薬検査を行った。参加者はお互いに検査方法を確かめ合いながら、経済連農産物安全分析センターの職員が検体の分析結果を確認し、平均値を割り出して、それぞれの分析精度を確認した。

検査キットを取り扱っている現場アドバイザーなどを通じて、留意点などを確認した。

残留農薬の検査  
精度向上めざす

JAの担当者ら研修

JA静岡経済連農産物  
安全分析センター

2010.09.28 日本農業新聞



# JAにおける食の安全・安心への取組について

---

## 取組の質が問われている

JAとして食の安全・安心に関して定めた事項が、確実になされているか、有効になされているかの検証に基づき、常に改善を加えているか.....。

- ・ 農薬の適正管理、適正使用 生産履歴の適正記帳
- ・ 農産物表示自主点検、残留農薬自主検査
  - ・ 生産者意識啓発研修
  - ・ 消費者への情報発信 等



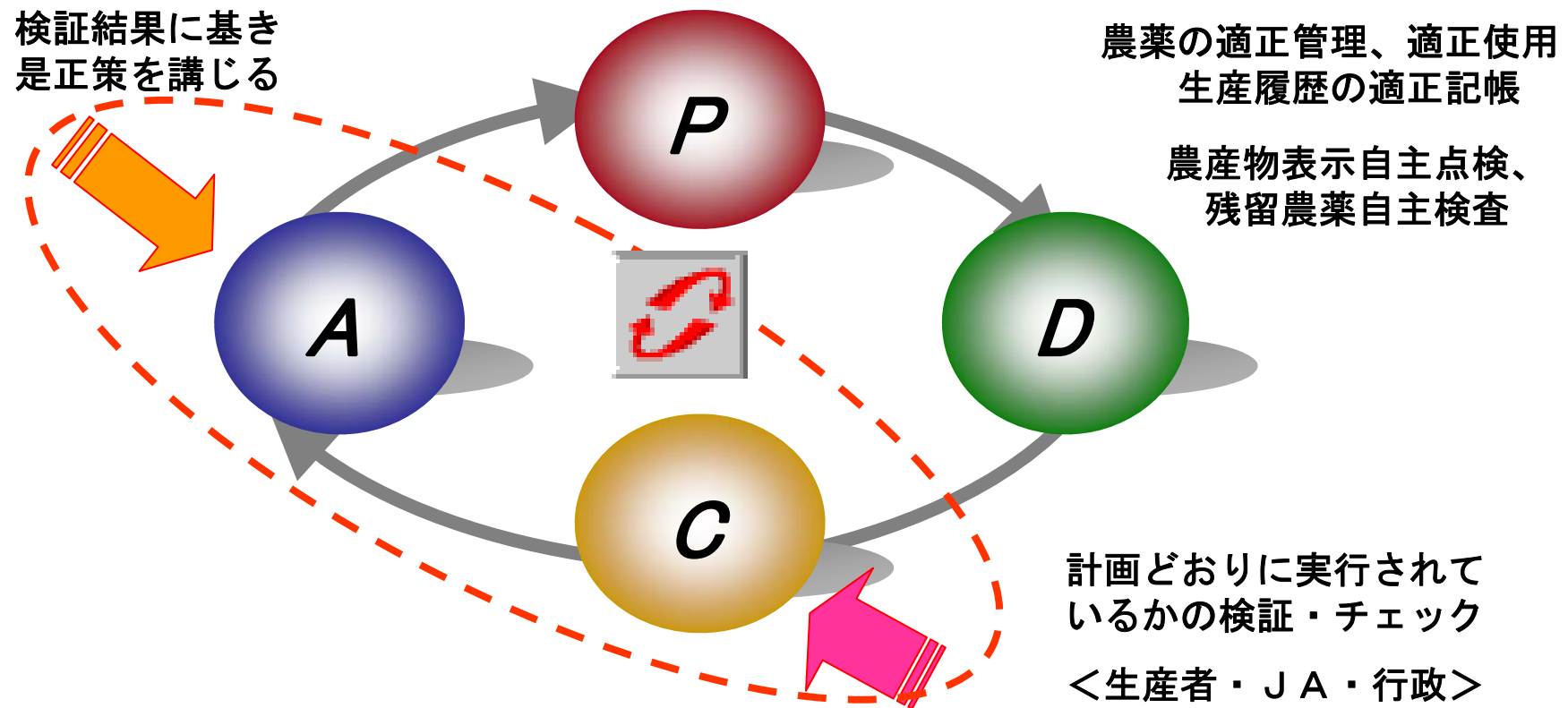
**実施の内容。質が重要。再度、見直しを！！**

**マネジメントサイクル(PDCA)に基づき継続的に質的向上をめざしているか**

# JAにおける食の安全・安心への取組について

マネジメントサイクル(PDCA)に基づき継続的に質的向上をめざしているか

Plan → Do → Check → Action



# 食の安全・安心に対策として留意したい事項

---

## <JAスタッフ>

安全・安心な農産物を消費者に確実に提供するために、JAがすべきことの徹底  
(食品安全基本法:食品取扱事業者としての責務)

食品取扱事業者としての消費者に対する品質保証の責任。

「安全・安心に関しては管理者の仕事。私の仕事ではない....」

この意識を変える。

## <JA内部>

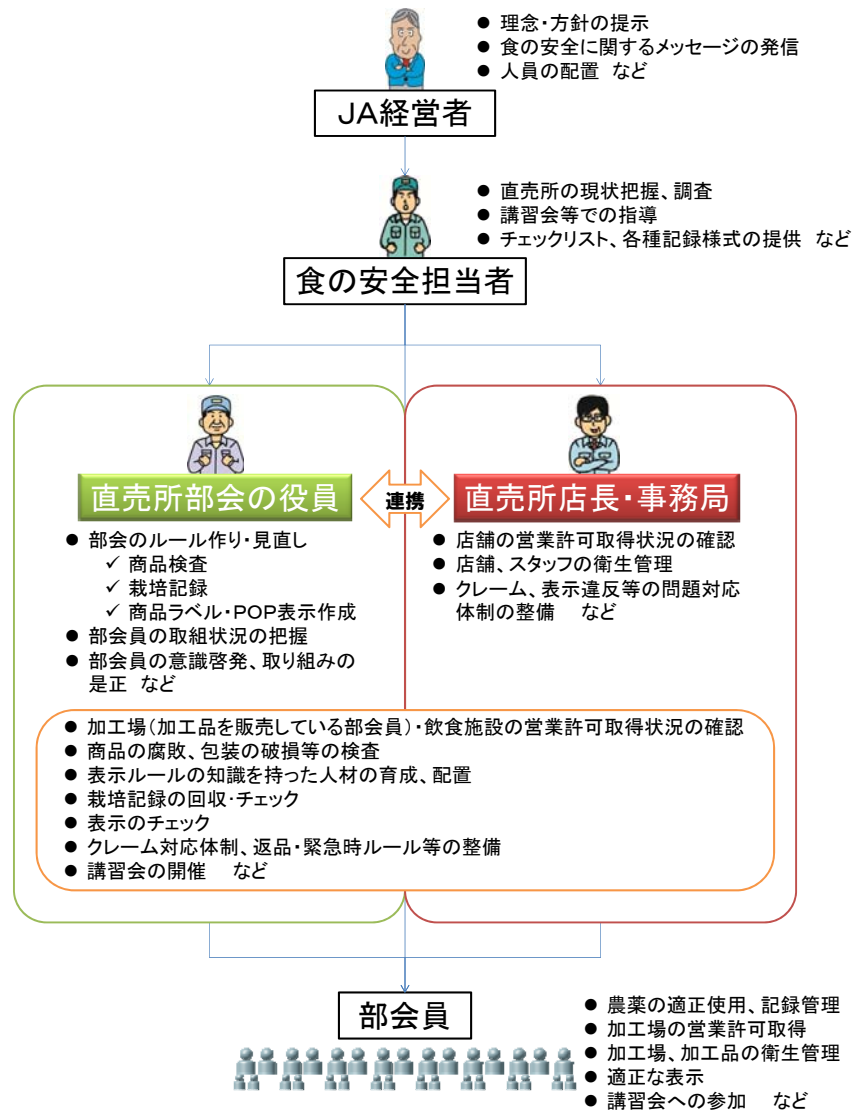
関連部署による連携を密にした取り組みが不可欠

JA本体のコンプライアンス・リスク管理内部統制部署、営農指導部署、生産部会等との連携

「食の安全・安心」は、JA全体の課題 という認識をすべてのメンバーが持つ。

役員主導による、JA内部の意識改革も不可欠

# 食料の安全・安心確保に向けた岩手JAグループの取り組み状況



## < 直売所での事例 >

引用:「食の安全・安心対策について」P13  
JA岩手県中央会農業対策部 平成26年11月19日



表 1 直売所・直売所部会におけるリスク管理項目例

| 取扱商品 | プロセス   | リスク管理項目例                  |
|------|--------|---------------------------|
| 農作物  | 生産     | 農作物の安全確保                  |
|      | 搬入・表示  | 搬入基準、適正表示                 |
|      | 検品     | 検品基準、実施時間帯・頻度             |
|      | 販売     | 店舗施設・設備・スタッフ等の衛生管理        |
| 加工品  | 製造     | 加工施設・器具・加工者の衛生管理、添加物の使用管理 |
|      | 表示     | 適正表示                      |
|      | 搬入・陳列  | 搬入基準、陳列方法                 |
|      | 検品     | 検品基準、実施時間帯・頻度             |
|      | 販売     | 店舗施設・設備・スタッフ等の衛生管理        |
|      | 異常チェック | チェック基準、実施時間帯・頻度           |
| 飲食物  | 調理・販売  | 調理施設・器具・調理者・店員等の衛生管理      |

表 2 直売所のリスク管理状況把握のための調査項目例

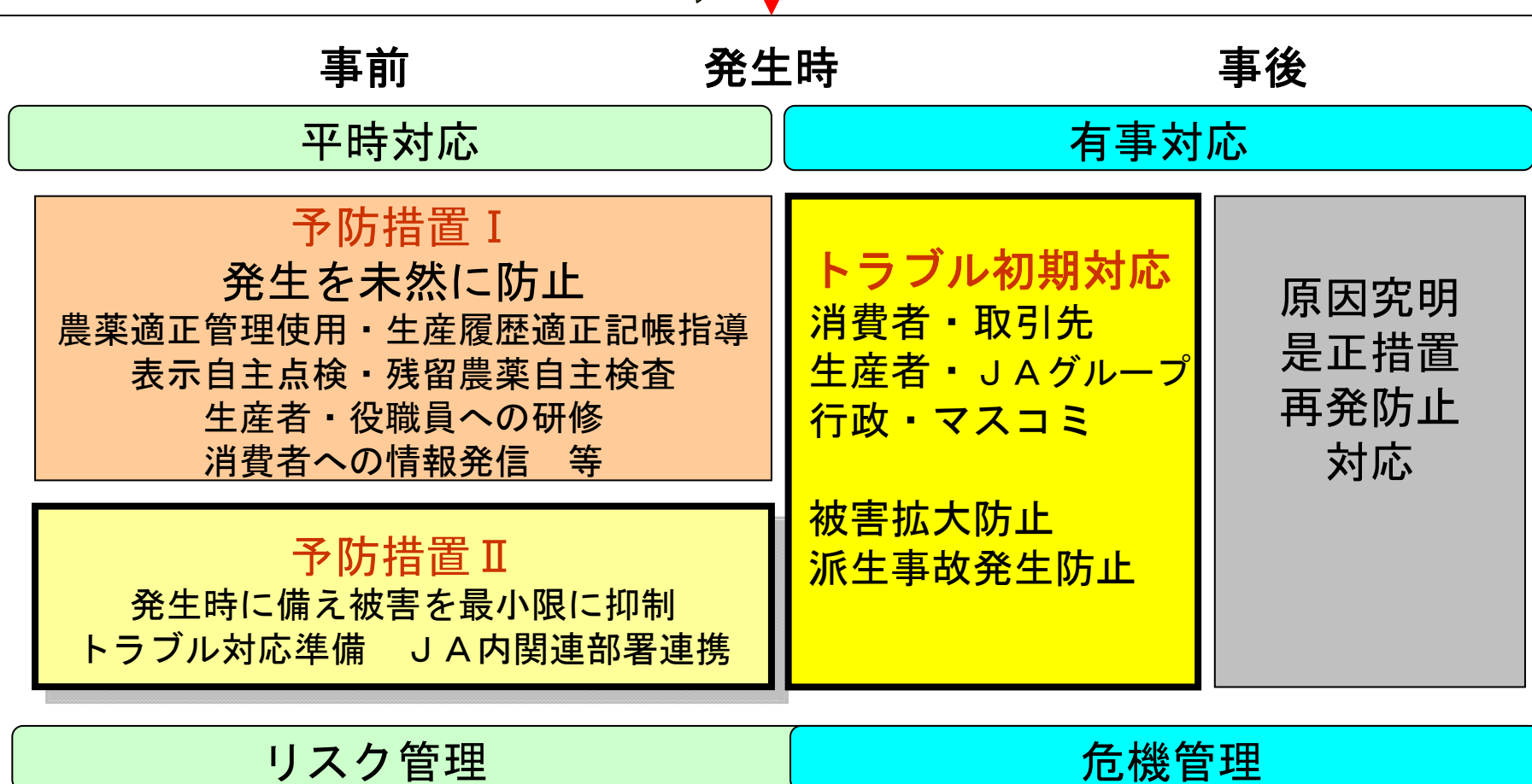
|           | 調査項目例                                     | 農作物 | 加工品 | 飲食物 |
|-----------|-------------------------------------------|-----|-----|-----|
| 農作物の安全確保  | 出荷計画の提出義務はあるか                             | ○   |     |     |
|           | 栽培記録の回収・点検は行っているか                         | ○   |     |     |
|           | 栽培記録の提出を出荷条件としているか                        | ○   |     |     |
| 営業許可      | 牛乳類、食肉、鮮魚介類を販売する場合は、営業許可を取っているか           |     | ○   |     |
|           | 出品者の食品営業許可証、許可条件、衛生管理状況等を確認しているか          |     | ○   |     |
|           | 直売所内に飲食施設を運営している場合は、営業許可を取っているか           |     |     | ○   |
| 商品の衛生管理   | 搬入時・販売時に、商品の品質、包装状態を点検する仕組みがあるか           | ○   | ○   |     |
|           | 表示の保存方法(冷蔵、冷凍など)に従って陳列されているか              |     | ○   |     |
|           | 冷蔵庫の温度は適切に管理されているか(温度計を設置し、温度を確認しているか)    |     | ○   | ○   |
| 適正表示、POP  | 加工品の表示の原稿をチェックする仕組みがあるか                   |     | ○   |     |
|           | 表示の知識を備えた人がチェックしているか                      |     | ○   |     |
| スタッフの衛生管理 | 服装、身だしなみは清潔か                              | ○   | ○   | ○   |
|           | 手洗い設備は整っているか(石鹸、消毒液、ペーパータオル等を備えているか)      | ○   | ○   | ○   |
| 店舗の衛生管理   | 整理整頓はできているか(食品と食品以外のものは区別して保管・陳列されているか)   | ○   | ○   | ○   |
|           | 店舗の徹底清掃を実施しているか(年に何回実施しているか)              | ○   | ○   | ○   |
|           | ねずみ、昆虫の侵入防止、駆除を行っているか                     | ○   | ○   | ○   |
|           | ゴミを適切に処理しているか                             | ○   | ○   | ○   |
| 教育、指導     | 営農指導、農薬適正使用、食品表示、衛生管理等に関する研修会を年間何回開催しているか | ○   | ○   | ○   |
|           | 商品のリパックなど、消費者から疑念をもたれる行為の禁止を指導しているか       | ○   | ○   |     |
| クレーム対応    | 苦情品が発生した場合は、迅速に消費者対応、再発防止が図られているか         | ○   | ○   | ○   |

# 食の安全・安心に関わるリスク管理・危機管理態勢イメージ

マニュアルを策定し、  
想定訓練を実施したい。

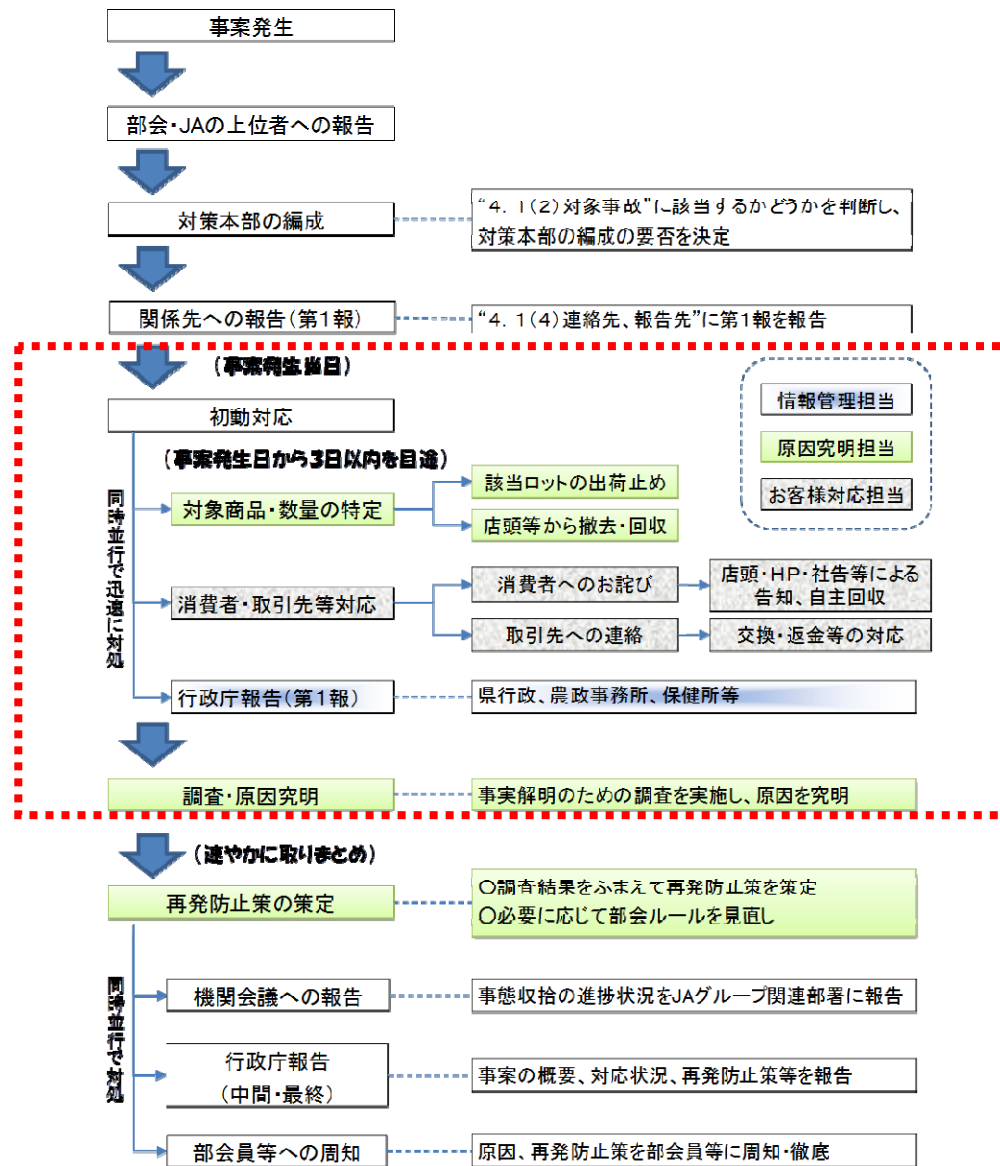
トラブル

時間軸



# 事故対応の流れ

## 本日の訓練 対称プロセス





# 本日の危機管理訓練 3つのトラブルへの対応

---

下記3つのトラブル発生を想定しての  
初期対応の仕方を検討整理。  
それにもとづき、グループ内にて、役割を分担し、  
ロールプレイングによる訓練を実施。

## トラブルの内容:

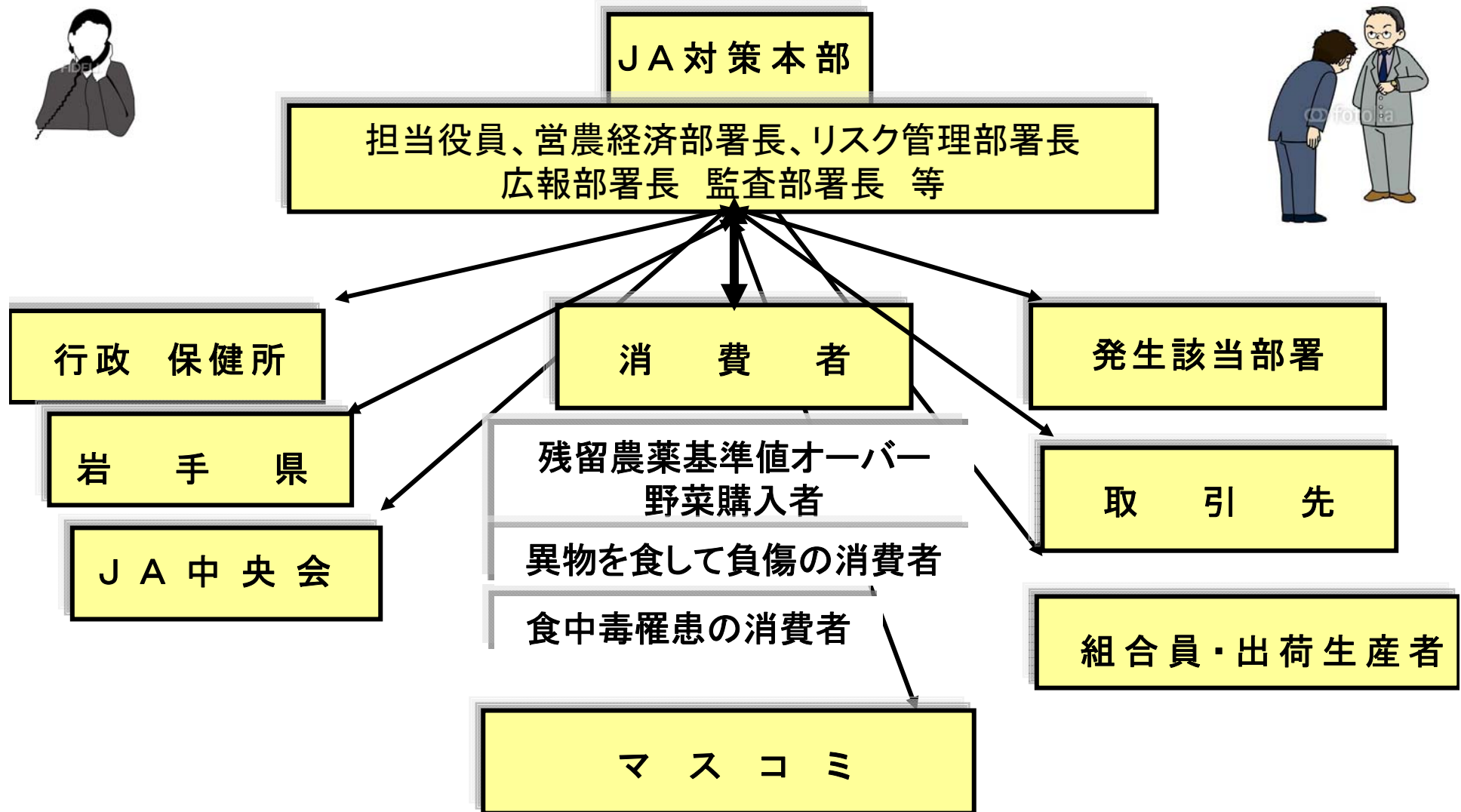
残留農薬基準値  
超過トラブル

異物混入トラブル

食中毒トラブル

# トラブル初期対応想定訓練

シナリオ作成・ロールプレイング



2015.08.22 土

日本農業新聞 全国版

平時にできないことは、有事にできない。  
 平時の訓練が重要  
 関係者の連携による実効性の高い  
 訓練を目指し、  
 ステップバイステップの歩みで実施したい。

# 食の安全管理を強化

岩手県  
中央会

11月に県内統一訓練

【岩手】JA岩手県中央会は、食の安全・安心の取り組みを強化している。JAの産直や加工施設などで、食品事故の未然防止に向けたリスク管理の他、事故発生時の被害拡大防止のための危機管理を強化する。11月に予定する県内統一の危機管理訓練などを通じ、食品供給県として消費者と「純情産地いわて」のブランドイメージを守る。

JAは、食の安全・安心担当部署と担当者を設定。産直施設などの危機

管理計画の策定を進める。11月に県内統一危機管理訓練日を設定し、中央会が提供したひな型を基にJAがアレンジして取り組む。年内に担当部課長会議を開き、訓練実施の課題などを共有する。

統一訓練を前に開いた、食の安全・安心危機管理研修会には、JAのリスク管理部門や内部監査部門、直売所の管理者ら約40人が参加。静岡県ARMMS（アカホリリスクマネジメントシステム）の赤堀三代治代表の

指導で、残留農薬基準値オーバーや異物混入、食中毒のトラブル発生を想定し、危機管理計画策定や顧客対応、記者会見を演習した。

赤堀代表は「顧客対応が一番大事。マニュアルはあっても自分たちで考えて対応してほしい。身近にあるリスクに気付いてほしい」と強調した。

参加者は「リスクが身近にあり、万が一発生した時の初期対応が重要」「訓練の大切さを重く知らされた」などと実感していた。





【いわてJAグループ】

## 食中毒、異物混入：対応を 危機管理へ訓練

【岩手】JAいわてグループは19日、「食の安全・安心にかかる県下統一危機管理訓練」を実施する。JAの産直や加工施設などで、食中毒や食品の異物混入などの事故発生に備え危機管理への意識強化を進める。JAグループ一体で、消費者と「純情産地いわて」ブランドを守る。

JA岩手県中央会は、JAの産直や加工施設などからノロウイルスの発生を想定したシナリオをJAに提示。JAでは、対策本部を設置し、事故

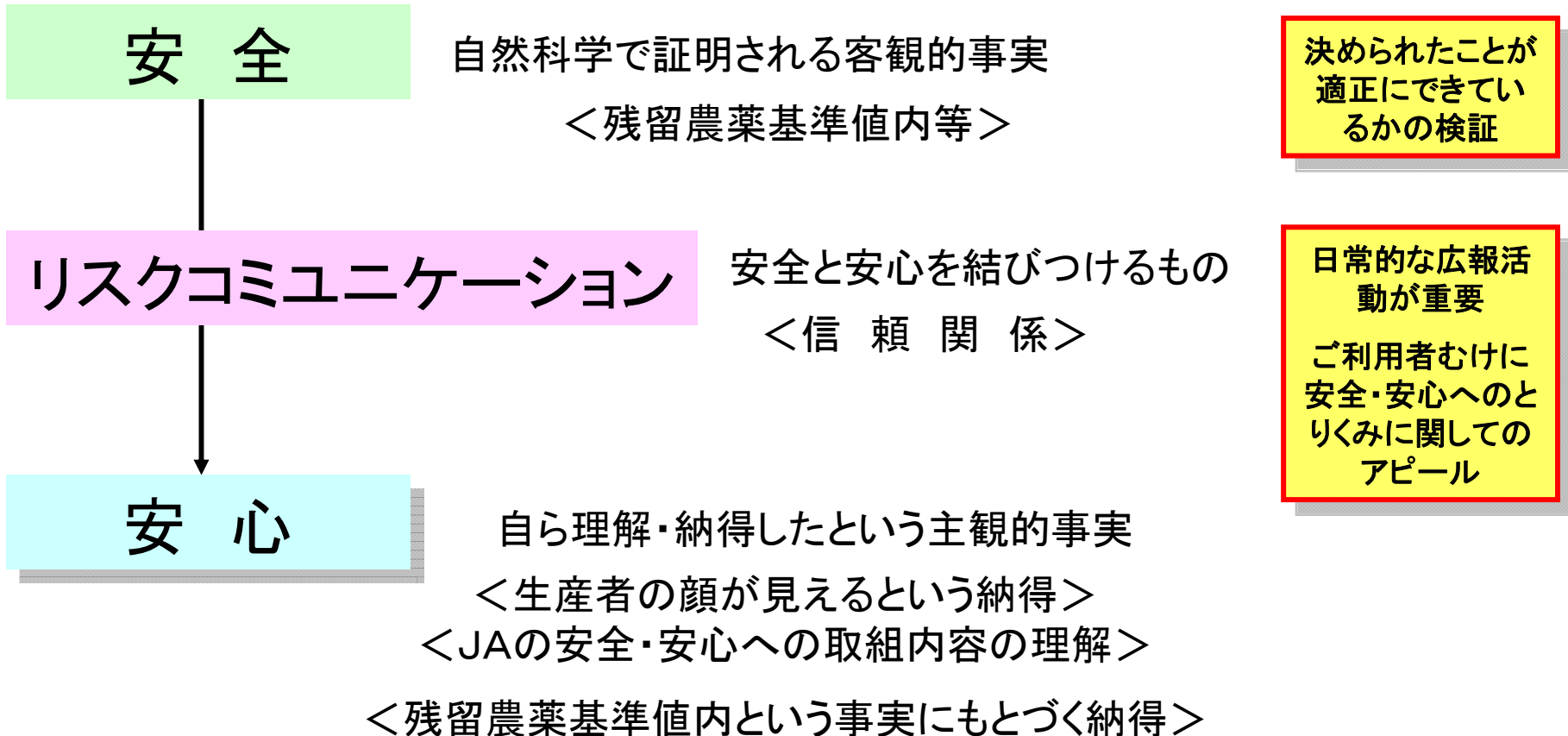
内容の確認や被害拡大防止策の策定、消費者やマスコミなどへの対応を協議し、被災消費者への謝罪などを訓練する。

8月には、危機管理訓練の研修会を開催。事故発生時に迅速な対応で、JA一体で早期に被害拡大を防止し、再発防止策の徹底につなげることを確認した。





# 食の安全・安心に関わる リスクコミュニケーション



\* 日経セイフティジャパン 209.11.13号  
「リスク」を正しく理解することで、合理的な「安全・安心」を獲得する「ワザ」とは!?  
明治大学理工学部教授、北野大 に加筆作成

# 目 次

---

- ・ はじめに  
自己紹介
- ・ 私といわてJAグループとのかかわり  
3.11 災害支援が契機  
いわてJAグループのコンプライアンス・リスク管理  
危機管理・BCP・食の安全・安心等態勢整備を支援
- ・ いわてJAグループの食の安全、安心へのとりくみ実態
- ・ **かかわって思う事**  
**これまでの反省とこれから**

# 日本人のリスク・危機感性の特徴

## 1. 危機意識が希薄

生まれた時から安全で平和な社会環境の中、危機遭遇していない。  
日常生活でも漫然と行動しがち。



## 2. 自己防衛意識の欠如

自衛本能がなくても生活に支障なし。危険から身を守る自己防衛意識が育たない。

## 3. 自意識が過剰

「自分だけは大丈夫だ」という意識が強い、他の人の事例から学ぼうとしない。  
陥りやすい勝手な思い込み（正常化の偏見）

## 4. 自己対策意識が欠如

自分では何もしない。すべて他人に頼りがち。トラブル等にまきこまれても、  
自己の非は認めず、相手や他人のせいにする。

## 5. 意識の風化が早い

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」の傾向がある。反省や対応策も直ぐに風化

## 本当に使えるBCPの第一歩は 社員の安全と家族の安全確保!

### ①組織内メンバーの全員参加 によるBCPの策定・運用

基本的なことですが、BCP策定にあたっては、一部の経営層や管理者層、担当者のみが関わるのではなく、パートやアルバイト従業員も含めた広範囲のメンバーが参加する形で策定していくことが大切です。

構成メンバーが「人ごと」ではなくて「自らの問題」として、自分の頭で考えるプロセスが重要であると考えます（もともと、これは全て業務運営にあてはまることです）。では、かつて勤務した事業所で体験したことを、時系列で記載します。

2009年8月11日5時7分  
静岡県御前崎沖を震源に静岡県地震発生（規模・M6.5、最大震度6弱）。

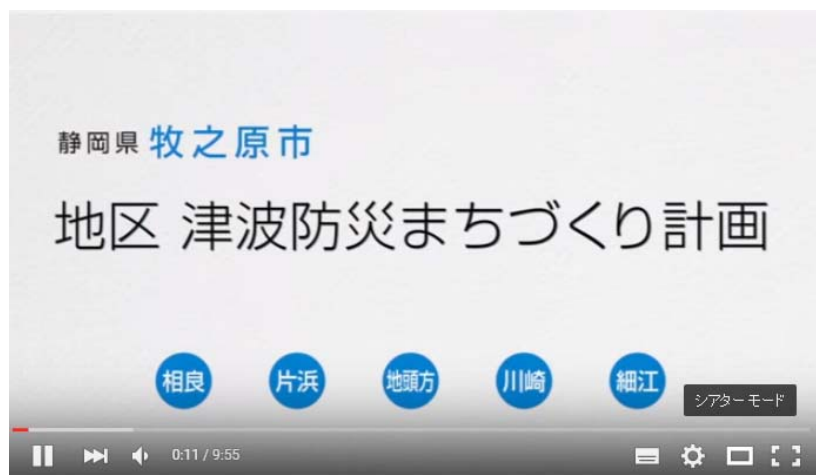
筆者の家は、震度6弱、揺れの時間は12秒。静岡においては40年来、東海地震の発生が話題となっています。家の耐震補強や家具の固定など、それなりの準備はしてきたつもりです。しかし、これほどの揺れを経験したのは初めてのことでした。

この経験を今後発生が予測される大規模災害災害を想定したBCPの策定・運用に生かしたいとの思いから、当日のうちに事業所内で協議をした結果、全てのメンバーに対してアンケート調査を実施することになりました。そして、この集計結果をもとに従来の防災計画のベースに修正を加え、大規模災害に対応したBCPを再策定したのでです。併せて、職場打合せや研修会などで、内容を相互に確認することも実践しました。

2011年3月11日発生の東日本大震災に続き、同年3月15日22時31分、静岡県東部で地震発生（規模・M6.4、最大震度6強）。そのときの対応において、少なくとも2009年8月発生の静岡県地震との違いを肌で実感でき、より多くの構成メンバーが参加する「全員参加によるBCP」の策定プロセスに確かな手ごたえを感じました。



## 市民の協働による計画策定



牧之原市「地区津波防災まちづくり計画」(2013年3月報告会 VTR)

<https://www.youtube.com/watch?v=rCveRs7ERGE>

## 会社内メンバー全員参加 によるBCPのとりくみ



特定非営利活動法人事業継続推進機構  
A Specified Non-Profit Japanese Corporation  
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)

BCAO 被災地視察&事業継続研修

宮城県コース



2014.08.07

最後の視察先。

株式会社 keihin

<http://www.keihin-corp.co.jp/>

自動車部品製造 角田第二工場

震災前から BCP に取り組んでいち

## 私のFB記事から 2015.08.22

私は、東日本大震災後、縁ありまして、JA岩手グループの「食の安全・安心」に関わる取り組みのお手伝いをさせて頂いております。

この仕事に関わるメンバーが自らの頭と体を使い、リスクの洗い出しに基づく、対応手順を準備していくプロセスを大切にしてきました。

JA岩手グループの、JA内リスク管理部署、営農経済部署、監査部署、生産者組織代表等の連携によるリスク管理・危機管理態勢の整備並びに運用への取り組み姿勢はすばらしいと思います。

岩手のみなさんとともにこの取り組みに関われることに感謝しています。



組織内、グループ内メンバーひとりひとりが、

様々な課題に対して、  
自分ごと として、  
自分の頭で考えることができる

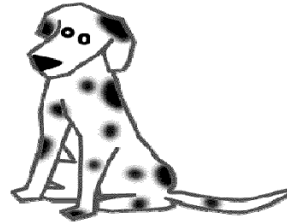
こういう組織、チームをめざしたい。

こういう組織体質・風土の中でこそ  
事業継続は可能となる、、、。

と私は心底 思います。

# END

ご清聴ありがとうございました。



Association of  
Risk Management  
Japan

**ARMS** アカホリ リスクマネジメント システム

あかほり み よ じ

代 表 **赤堀 三代治**

リスクマネージャー・リスクアドバイザー  
(リスクマネジメント協会認定)

〒424-0041 静岡市清水区高橋5-11-5  
TEL:09012888954 FAX:054-366-0098  
e-mail : m-a@msj.biglobe.ne.jp  
blog : <http://infor-clip.269g.net/>